

# SONY®



BSチューナー内蔵MUSEデコーダー

## MST-1000

### 取扱説明書



BSチューナー内蔵MUSEデコーダー

# MST-1000

取扱説明書

# 目次

## 概要

ハイビジョンについて	6
ハイビジョンとは	6
ハイビジョン放送とMUSE方式	7
ハイビジョン関連機器	7
MUSEデコーダーについて	8
本機の主な特長	9
各部の名称と働き	10

## 接続

接続の前に	18
手順について	18
BSアンテナとの接続	19
接続するときは	20
ハイビジョン対応テレビ／モニターとの接続	21
使用する端子とその働き	21
ハイビジョン対応テレビKW-3600HDとつなぐには	22
ハイビジョン対応モニターPHM-3600とつなぐには	23
プロジェクターHDIHシリーズ、またはHDモニターHDMシリーズとの接続	24
使用する端子とその働き	24
接続のしかた	25
デジタルオーディオ機器との接続	26
使用する端子とその働き	26
接続のしかた	27
将来的に考えられるシステムとの接続	28
使用する端子とその働き	28
接続のしかた	29

## 操作

## 知っているると便利

## その他

6  
6  
7  
7  
8  
9  
10  
  
18  
18  
19  
20  
21  
21  
22  
23  
24  
24  
25  
26  
26  
27  
28  
28  
29

操作

ハイビジョン放送、BS放送を見るには	30
好みの音声を選ぶには	31
テレビ／モニターの画面表示	32
音声について	33
外部入力からのMUSE信号を見るには	36
テレビ／モニターの画面表示	37
便利な使いかた	38

知っているると便利

アンテナの方向／角度の調節	40
準備	40
操作	40
メニュー画面の使いかた	42
タイマー録画するには	42
チャンネル設定するには	48
画面表示を出ないようにするには	50

その他

主な仕様	52
使用上のご注意	54
故障とお考えになる前に	55
保証書とアフターサービス	56

概要

接続

操作

知っているると便利

その他

# ハイビジョンについて

## ハイビジョンとは

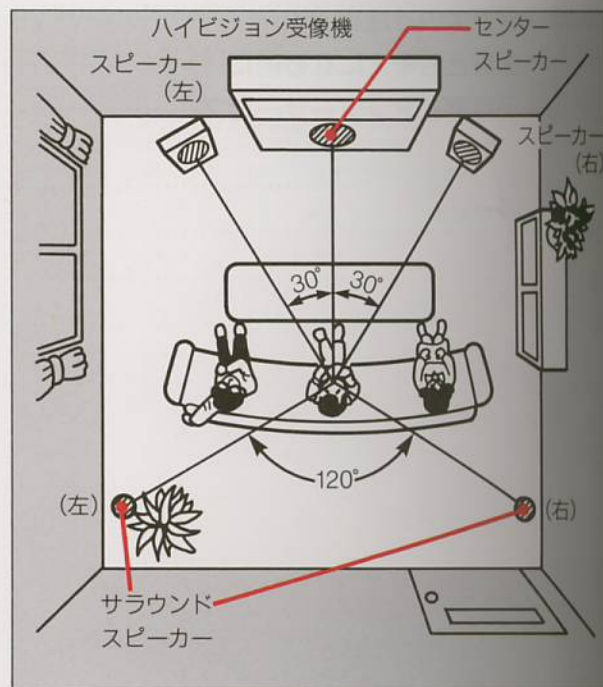
ハイビジョンは現行のテレビ方式に対して、より高精細で臨場感のあるワイドテレビとして日本(NHK)で開発された次世代のテレビ方式です。現行のテレビ方式との比較でハイビジョンの特長を簡単に表現すると次のようになります。

- ・走査線数が1125本と現行テレビの525本の2倍以上あり、画面がワイドになったことと合わせて現行テレビの約5倍の情報量(細かさ)をもっています。その画質は35mmフィルムに匹敵するほど高精細になっています。
- ・画面の縦横比は9:16(現行テレビは3:4)と横長で、映画の画面とほぼ同じ比率になっています。そのため映画やスポーツ中継などに最適な画面が得られます。
- ・画面の高精細化により最適視距離が近くなり、現行テレビが画面の高さの6、7倍であるのに対し、3倍の距離となります。これと画面のワイド化によって視野角がより広がり、臨場感・迫力が格段に向上します。
- ・ハイビジョンの音声は高い音質が得られるPCMで、臨場感にすぐれた4チャンネルステレオ方式や、ステレオによる2カ国語放送を採用しています。

### ■ハイビジョン方式と現行テレビ方式(NTSC)の比較

項目	方式	ハイビジョン	NTSC
走査線数(本)		1125	525
アスペクト比		16:9	4:3
インターレース比		2:1	2:1
フィールド周波数(Hz)		60	59.94
映像信号(帯域)(MHz)			
輝度信号 Y		30	4.2
色差信号 R-Y		30	1.5
B-Y		30	0.5
		または、R、G、B各30MHz	

### ■3-1方式4チャンネルステレオの基本的なスピーカー配置別



⇒表で示すように、ハイビジョンと現行テレビ方式とでは互換性はないので、ハイビジョン用の新しい受像機が必要となります。

## ハイビジョン放送とMUSE方式

ハイビジョンの原信号（ベースバンド信号）は、非常に周波数帯域が広いのでそのまま放送するには十数チャンネルの帯域幅を必要とし、現行の地上放送（VHF、UHF）では信号を送ることが困難です。このため放送の信号帯域幅が最も広く、ハイビジョン放送を全国一律に届けることのできる衛星放送が最適の放送手段として採用されました。そこで、衛星放送の1チャンネル分の帯域幅に圧縮して伝送する技術が必要になりNHKで開発されたのが、MUSE\*方式です。

\*MUSEはMultiple <sup>サブ</sup>Sub-Nyquist <sup>サンプリング</sup>Sampling <sup>エンコーディング</sup>Encodingの略です。

## ハイビジョンの原信号をMUSE信号に圧縮するには

衛星放送の1チャンネルの帯域幅は27MHzありますが、衛星放送に適した変調方式であるFMを用いるためには、ハイビジョンの原信号を約8MHzに制限しなければなりません。それにはまず前処理としてハイビジョンの原信号の帯域を削って輝度信号

を20MHz、2つの色差信号を7MHzとします。この程度帯域を削っても家庭での視聴条件を満足する品質の画質は得ることができます。この信号を多重サンプリングという方式でデジタル化し、約8MHzの帯域幅に圧縮したものがMUSE信号です。

## MUSE方式の画像伝送方法について

MUSE方式は、1画面を粗い画面である4つのフィールドに分けて伝送する方式で、受信側に画像メモリーを設け、送られてきた4フィールドのデータから1画面を再現します。これだけだと静止画はほぼ完全に再生することができますが、動いている部分はすれて四重に見えてしまうため、動画の部分は単一フィ

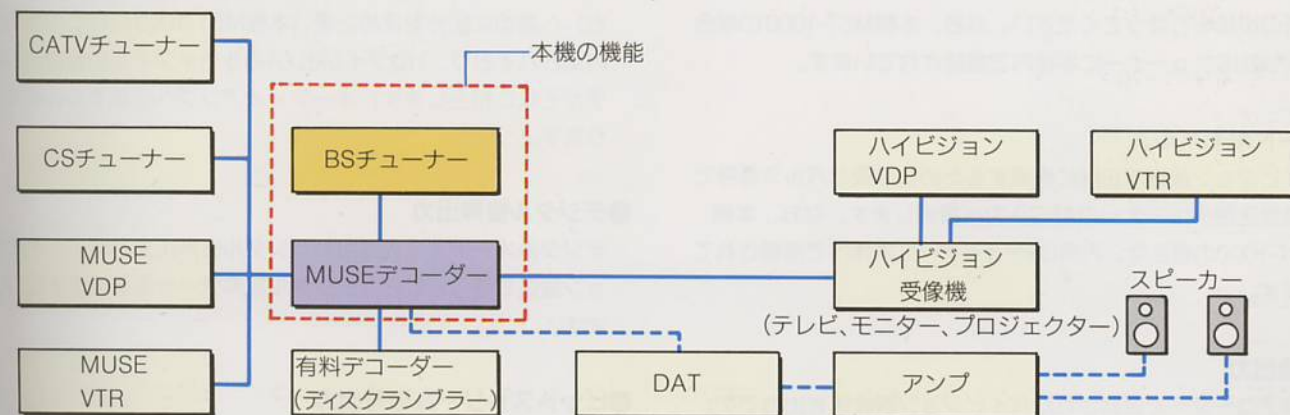
ールドから1画面を再現します。このため動画部分は静止画より若干解像度が落ちますが、視覚特性上許容できる範囲です。また音声信号は4チャンネルあり、3-1ステレオ放送他各種の多重放送、ステレオ放送を送ることができます。

→上記により、ハイビジョン放送を受信するためには、MUSE対応の衛星放送チューナーおよびMUSEデコーダーが必要となります。

## ハイビジョン関連機器

ハイビジョン関連機器の中には現在開発中で数年後に実用化されるであろう機器がいくつかあります。それらと組み合わせるとハイビジョンのシステムアップが可能になります。機器の接続は次のように考えられます。

### ■システムアップ想像図



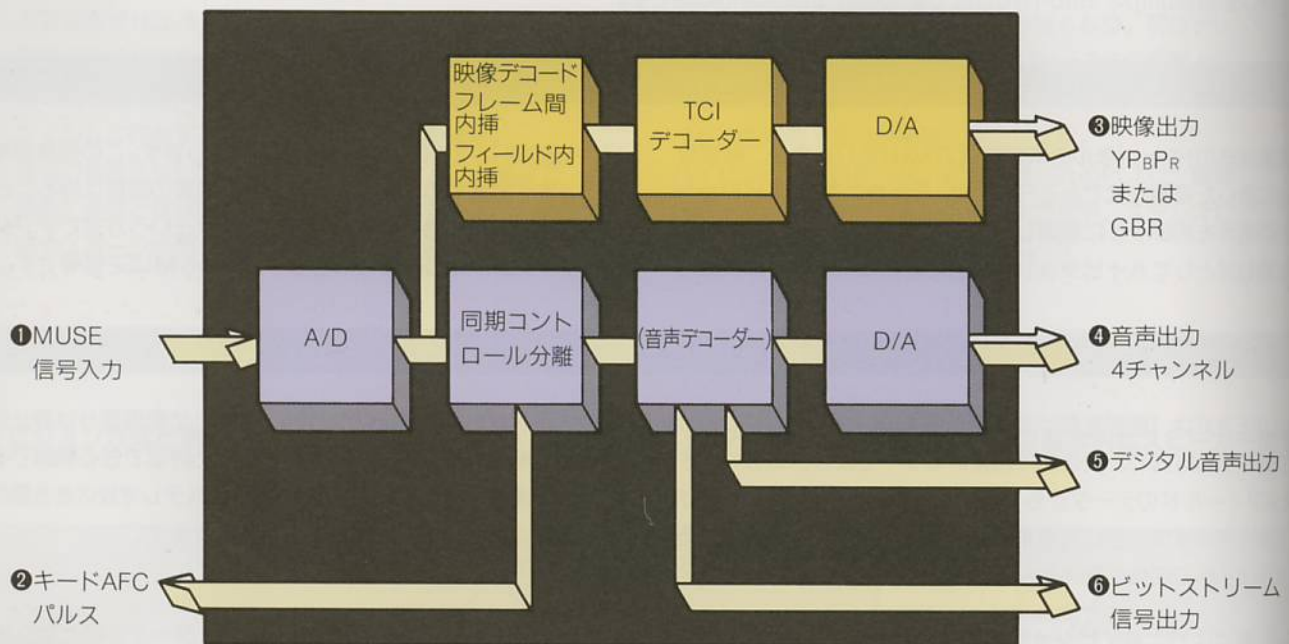
ちょっと一言

この図はあくまでも想像図です。図の中の機器はほとんど開発中のものなのでご了承ください。

## MUSEデコーダーについて

MUSE方式で送られてきた信号をハイビジョンの原信号へデコード(復調)する役目をするのがMUSEデコーダーです。その構成図を下に示します。

### MUSEデコーダー構成図



#### ① MUSE信号入力

MUSE信号を入力します。ハイビジョン放送のMUSE信号を入力する場合は信号帯域幅が8MHzありますので、MUSE対応のBSチューナーが必要です。またこのとき、キードAFCパルス信号の接続を行ってください。なお、本機MST-1000の場合は、内蔵BSチューナーに本体内で接続されています。

#### ② キードAFCパルス

ハイビジョン放送を正確に検波するために必要なパルス信号で衛星放送用チューナーのAFC入力へ接続します。なお、本機MST-1000の場合は、内蔵BSチューナーに本体内で接続されています。

#### ③ 映像出力

映像デコーダーで復調されたハイビジョン映像信号出力です。信号の形式は2種類、YPbPr (Y:輝度信号、Pb:色差信号・青、Pr:色差信号・赤)とGBR(三原色信号、緑、青、赤)とがあります。この信号をハイビジョン用のディスプレイに接続することにより、ハイビジョンの画像を再生します。

#### ④ 音声出力

音声デコーダーで復調されたアナログ音声出力です。4チャンネルの音声出力がありますので、そのとき放送音声モードに合わせLRCSLr(左、右、センター、サラウンド左、サラウンド右)へ適切に配分を決めた後(本機MST-1000にはこの機能が内蔵されており、HDライン出力1の5チャンネルの音声出力端子がそれに相当します)オーディオアンプへ接続する必要があります。

#### ⑤ デジタル音声出力

デジタルオーディオ機器用のデジタル音声出力です。ハイビジョン放送で送られてきたデジタル音声データをそのまま出力します。

#### ⑥ ビットストリーム信号出力

音声の識別コード等、各種のデータを出力します。将来発売が予想されるハイビジョン関連機器で、使用される可能性があります。



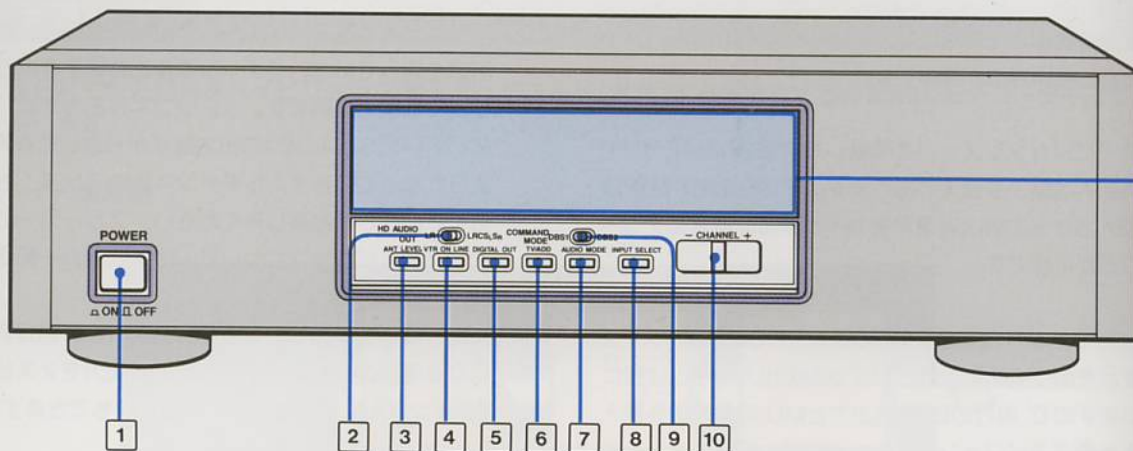
# 本機の主な特長

- ・ MUSEデコーダーとMUSE用のBSチューナーが、両方の性能を十分発揮するよう考慮された上で一体化されています。一体化したため使用方法が簡単です。
- ・ 将来のハイビジョンシステムを考慮して内蔵のMUSEデコーダーに外部入力端子を備えています。そのため BS 放送以外の外部入力からのMUSE信号をハイビジョン信号にデコードすることが可能です。
- ・ 内蔵のBSチューナーでは現行のBS放送 (NTSC信号) も受信できます。その出力端子はハイビジョンの出力端子とは別になっていますので、現行のBS放送出力とMUSE信号を外部入力したときのハイビジョン信号出力が同時に可能です。そのため例えばMUSEビデオディスクプレーヤーを見ながら通常のBS放送を録画することができます。またその逆もできます。
- ・ ハイビジョン放送の音声形態は、ステレオ系統や4チャンネル(3-1)方式など多種類にわたりますが、そのすべてに対応しております。

- ・ ハイビジョンの音声信号は、音声切替選択回路を通った5チャンネル出力端子 (HDライン出力1) からと、音声切替選択回路を通っていない4チャンネル出力端子 (HDライン出力2) が別々に出力可能です。5チャンネル出力では、放送音声に応じてLRCSL SRの5つの出力端子から適切に音声信号が出るようになっています。5チャンネルのアンプ、およびスピーカーに接続してお楽しみください。スピーカーの位置については「ハイビジョンについて」のスピーカー配置図を参照してください (6ページ)。  
また、簡易的にスピーカー2台 (前方左、前方右) でご使用になる場合のために、5チャンネル出力を2スピーカー用に2チャンネルに変換して出力することもできます。
- ・ ハイビジョンの映像信号は、YPbPr形式でもGBR形式でも出力できます。また、映像の出力系統はHDライン出力1とHDライン出力2の2つあり、それぞれ個別に出力することができます。HDライン出力1のYPbPr形式では画面表示ができます。
- ・ VTR連動機能が付いていますので、現行のBS放送 (NTSC信号) のタイマー録画ができます。

# 各部の名称と働き

## 前面



### 1 POWER (電源) スイッチ

電源を入れるとき、切るときに押します。

### 2 HD AUDIO OUT/LRCS<sub>L</sub>S<sub>R</sub> 切り換えスイッチ

MUSE/HDライン出力1の音声出力端子に5端子とも接続したときはLRCS<sub>L</sub>S<sub>R</sub>側に、5端子の内フロント左、フロント右端子の2チャンネルにしか接続しなかったときはLR側にしてください。ハイビジョン放送の音声の内容を、接続したスピーカーの数に合わせて5つの出力と2つの出力という2つのモードに切り換えることができます。なお、MUSE/HDライン出力2端子およびBS出力/ライン出力端子には関係ありません。

### 3 ANT LEVELボタン

INPUT SELECTボタンを押してBS IF入力側にしたときこのボタンを押すと、テレビの画面に現在のアンテナ入力レベルが表示されます。アンテナの方向を調節するときに使います。

### 4 VTR ON LINE (VTR運動) ボタン

VTR運動機能を使ってお手持ちのVTRで通常のBS放送のタイムー録画をするとき使います。このボタンを押して表示窓のPROGRAMを点灯させておくとVTR運動機能が働きます。

### 5 DIGITAL OUT (デジタル音声出力) ボタン

裏面のデジタル音声出力端子からの信号を入/切します。ハイビジョン放送受信時はハイビジョンのデジタル音声信号が、通常のBS放送受信時はそのデジタル音声信号が、MUSEまたはBSそれぞれの端子から出力します。出力時は表示窓のDIGITAL表示が点灯します。

### 6 TV/ADD (テレビ音声/独立音声 切り換え) ボタン

テレビ音声と独立音声両方送られているとき、聞きたい方を選びます。選んだ方に  の囲み表示が出ます。

### 7 AUDIO MODE (音声モード) ボタン

ステレオ放送および二重音声放送が行なわれているときにお好みの音声モードを選ぶボタンです。ハイビジョン放送および通常のBS放送のとき、放送局から受信したステレオや二重音声の信号のモードに従って表示窓の表示が点灯します。複数点灯している場合はご希望の音声の状態をこのボタンを押して選びます。選んだところには  の囲み表示が出ます。上記のようにこのボタンはMUSEの音声モード切り換えとBS放送のそれと兼用になっていますので、INPUT SELECT ボタンでEXT MUSEを選んでいるときは、BS放送の音声モード切り換えができません。そのときは一度INPUT SELECT ボタンを押してBS IF入力側にしてください。

### 8 INPUT SELECT (入力切り換え) ボタン

MUSEデコーダーへの入力信号を切り換えるためのスイッチです。BS IF入力端子からのMUSE信号と、外部MUSE入力端子 19~22からのMUSE信号を切り換えます。1回押すごとに表示窓のチャンネル表示 (BS IF入力) とEXT MUSE表示 (外部入力) が切り換わります。

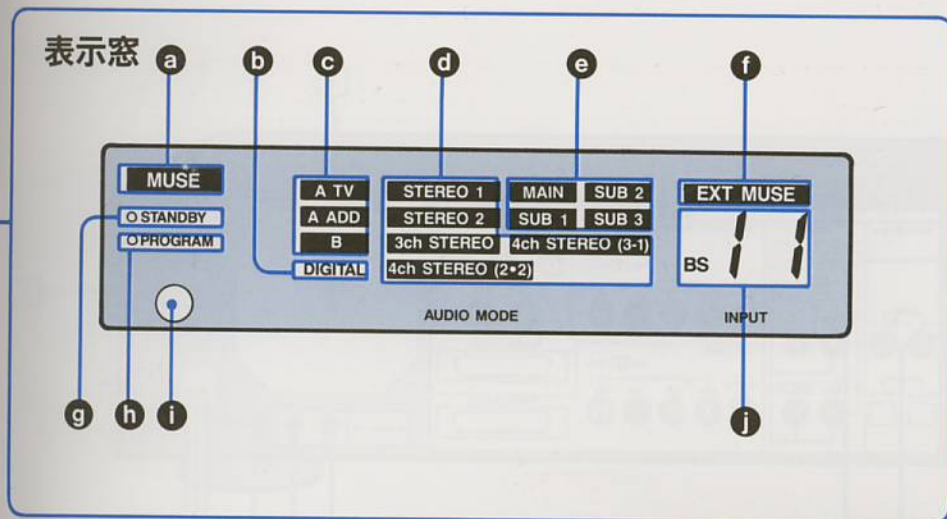
### 9 COMMAND MODE/DBS 1・DBS 2 切り換えスイッチ

必ずこのスイッチと付属のリモートコンマダーのスイッチの位置を合わせてご使用ください。また、ハイビジョン対応テレビ KW-3600HDと本機と一緒にご使用になるときは、切り換えスイッチを本体とコマダー両方ともDBS2側にしておくことをおすすめします。こうしておくと、本機のリモートコマダーでKW-3600HDやソニーのBSチューナーが動作してしまうのを防ぐことができます。

### 10 CHANNEL -/+ボタン

押すとあらかじめ設定されたチャンネルが順に選べます。

ミュージック  
a MUSE  
MUSE  
ます。  
入力さ  
デジタル  
b DIGIT  
デジタ  
カされ  
c 放送音  
放送局  
テレビ  
独立音  
ときは  
音声両  
かを選  
d ステレ  
放送局  
常のL  
します。  
が2系統  
ように  
で聞き  
ます。  
e 二重音  
放送局  
主/副  
す。点  
ボタン  
は MA



ミュージック

**a MUSEランプ**

MUSEデコーダーへMUSE信号が入力されているときに点灯します。それ以外の信号—NTSC信号、無信号、ノイズなどが入力されている場合は点灯しません。

デジタル

**b DIGITAL表示**

デジタル音声出力端子（同軸および光）からデジタル信号が出力されているときに点灯します。

**c 放送音声モード表示**

放送局から送られてくる音声モードを表示します。Aモードでテレビ音声が発送されているときは「A TV」表示、Aモードで独立音声が発送されているときは「A ADD」表示、Bモードのときは「B」表示が点灯します。Aモードでテレビ音声/独立音声両方送られてくるときは、前面のTV/ADDボタンでどちらかを選びます。選んだ方に  の囲み表示が出ます。

**d ステレオ音声出力表示**

放送局から送られてくるステレオ音声を表示します。なお、通常のL、Rのステレオ放送の場合は  STEREO 表示のみ点灯します。点灯している表示が複数の場合、例えばステレオ放送が2系統で送られている場合は  STEREO 1  STEREO 2 のように点灯します。そのときは前面のAUDIO MODE ボタンで聞きたい方を選びます。選んだ方に  の囲み表示が出ます。

**e 二重音声出力表示**

放送局から送られてくる二重音声を表示します。なお、通常の主/副だけの放送の場合は  MAIN  SUB のように点灯します。点灯している表示は複数ですので前面のAUDIO MODE ボタンで選びます。例えば4カ国語で多重放送されている場合は  MAIN  SUB 1  SUB 2  SUB 3 のように点灯します。

聞きたいモードは、AUDIO MODEボタンで選びます。選んだものに  の囲み表示が出ます。

エキス ト ミュージック

**f EXT MUSE表示**

INPUT SELECTスイッチにより、外部入力選ばれているときに点灯します。このとき放送音声モード、ステレオ音声出力、二重音声出力表示は外部入力した信号の内容を表示します。BS放送のこれらの表示を選択したいときは、INPUT SELECT ボタンを押してチャンネル表示にしてください。

**g STANDBY(リモコンスタンバイ)ランプ**

本体のPOWERスイッチがONの状態リモコンの電源ボタンで電源を切ると、このランプが点灯します。本体前面のボタンが押されたときやリモコンを受けたときにも一瞬点灯します。アンテナレベル表示時、PEAK値とNOW値が一致したとき、本機の動作中に放熱用ファンが止まってしまった場合や、コンバーター用電源出力に異常な電流が流れた場合には点滅します。

プログラム

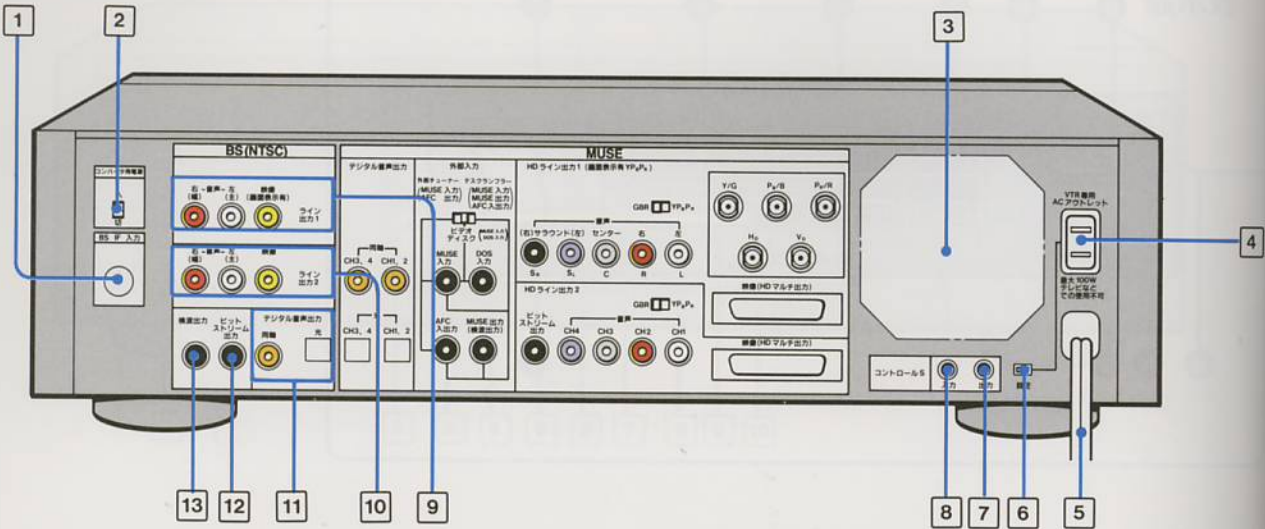
**h PROGRAM表示**

VTR連動機能を使ってタイマー録画ができますが、そのための設定の際設定ボタンを押したとき約10秒間点滅します。またタイマー録画を予約する際、VTR ON LINEを押したとき点灯します。

**i リモコン受光部****j チャンネル表示**

INPUT SELECTボタンによりBS IF入力選ばれているときに点灯し、選んだチャンネルが表示されます。

裏面



1 BS IF入力端子(75ΩF型コネクタ、DC15V/コンバーター用電源)

BSコンバーターからのケーブルをつなぎます。

ご注意

- この端子からBSコンバーター用の電源(DC15V)が供給されますのでBSコンバーター以外は絶対につながないでください。
- ケーブルをつなぐときは、工具を使わずに手でしっかりと締めてください。(工具を使うと、端子をいためることがあります。)

2 コンバーター用電源スイッチ

BSコンバーターに供給する電源(DC15V)を入/切るスイッチです。お買い上げ時には切になっていますが、BSコンバーターからケーブルをBS IF入力端子に直接つなぐ場合は入にしてください。また、平面アンテナなどのBSコンバーター一体型アンテナと直接接続する場合も「入」にしてください。マンションで共聴システムをお使いのときは「切」のままにする場合があります。

3 放熱用ファン

内部の温度を上げないためのものですので、ふさがないでください。

4 VTR専用ACアウトレット(非連動最大100W)

- 本機のVTR連動機能を使って、ハイビジョン放送以外の通常のBS放送をタイマー録画するとき、ビデオデッキの電源プラグをここに繋ぎます。
- 本体またはリモコンのVTR連動ボタンを押して連動機能が働く状態にしておくことができます。
- 連動機能を働かないようにしておいてもこのACアウトレットからビデオデッキに電源は供給されています。

ご注意

- テレビなど、他の電気機器や消費電力が100W以上のビデオデッキをここに繋がないでください。
- ここに接続したビデオデッキのACアウトレットには何もつながないでください。VTR連動機能が正しく働かない場合があります。

5 電源コード

6 設定ボタン

本機のVTR専用ACアウトレットにお手持ちのビデオデッキを接続して、VTR連動機能を使うときに、このボタンを押します。そのビデオデッキを使って、通常のBS放送をタイマー録画するための準備ができます。(12ページ参照)

7 コント

テレビ  
つない  
作する  
STAND

8 コント

ビデオ  
ます。  
は、こ  
とがで  
コンの  
ださい。

4

**7 コントロールS出力端子 (ミニジャック)**

テレビやビデオデッキのコントロールS入力端子とつなぎます。つないだ機器用のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作することができます。なお、本機の電源がONまたはSTANDBY時のみ操作できます。

**8 コントロールS入力端子 (ミニジャック)**

ビデオデッキやテレビなどのコントロールS出力端子をつなぎます。ソニーのビデオデッキでBSコントロール機能を持つものは、この接続をすることにより、VTR側で予約録画を行なうことができます。なお、BSコントロール機能を用いる場合はリモコンのCOMMAND MODEスイッチはDBS 1にしておいてください。

9~13はBS(NTSC)出力—通常のBS放送のための端子です

**9 ライン出力1 端子****映像(画面表示有)/音声(ピンジャック)**

通常のBS放送を見るために、テレビ/モニターの映像、音声入力端子とつなぎます。映像は、通常のコンポジットビデオ(NTSC)信号が出力されます。つないだテレビ/モニターの画面にチャンネルや音声モード、メニュー等の画面表示が出るようになります。音声については前面のTV ADDボタンやAUDIO MODEボタンで切り換えます。

**10 ライン出力2端子****映像/音声 (ピンジャック)**

ライン出力1と同様です。ただし映像出力に、チャンネルや音声モード、メニューなどの画面表示は出力されません。

**11 デジタル音声出力端子****同軸(ピンジャック)、光(角形光コネクター)**

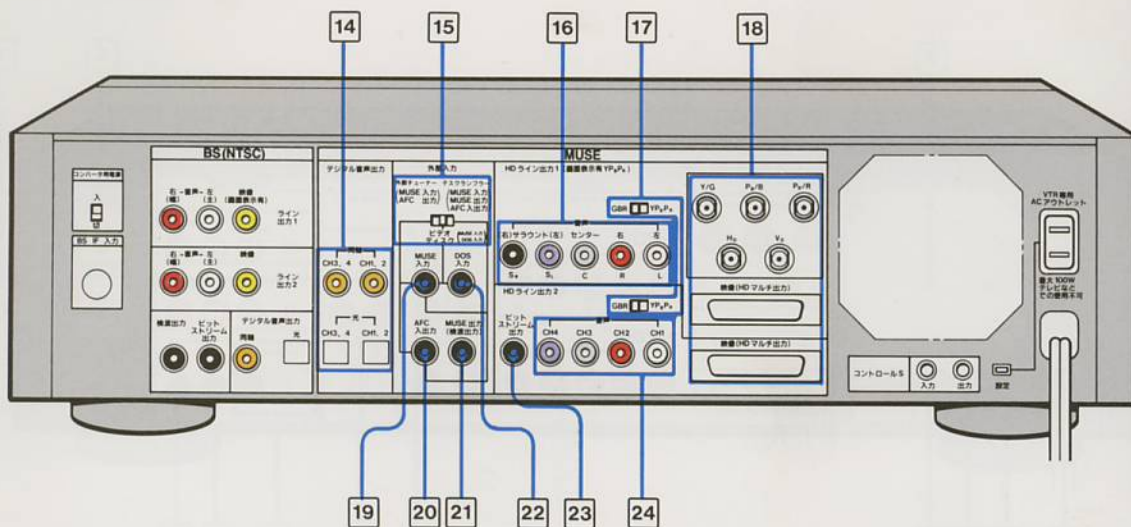
放送局から送られてきたデジタル音声を、そのまま出力します。DAT(デジタルオーディオテープレコーダー)やD/Aコンバーターなどのデジタル音声入力端子とつなぎます。

**12 ビットストリーム出力端子 (ピンジャック)**

13と同様、ディスクランブラーにつなぎます。また、将来的に考えられているデータチャンネル放送に対応するのにも使用できます。

**13 検波出力端子 (ピンジャック)**

1991年に開始予定のスクランブルのかかった有料BS放送を受信するには、ディスクランブラーが必要です。そのディスクランブラーとつなぐ端子で、検波後の信号が出力されます。



14～24はMUSE 入出力ーハイビジョン放送のための端子です

**14 デジタル音声出力端子**

同軸(ピンジャック) チャンネル CH1, 2 チャンネル CH3, 4  
 光(角形光コネクタ) チャンネル CH1, 2 チャンネル CH3, 4

HDライン出力2と同じ内容の音声デジタル出力されます。DAT(デジタルオーディオテープレコーダー)や、D/Aコンバーターなどのデジタル音声入力端子とつながります。

**15 外部入力 切り換えスイッチ**

MUSE信号を他の機器から入力するとき19～22の外部入出力端子にそれぞれの場合に応じて接続します。接続した機器によりこのスイッチを、外部チューナー、ビデオディスク、ディスクランプラーのどれか対応するものに切り換えます。外部入力/MUSE入力端子に何も接続しない場合は、中央の「ビデオディスク」に設定してください。

なお、「外部チューナー」設定時の内容は、将来のBS放送以外のハイビジョン放送に備えたものであり、現時点では規格が不明なのでBS放送の規格に合わせてあります。将来CS、CATVなどで伝送規格が明確になった時点で本機内部で調整する必要があります。

**16 HDライン出力1/音声(L, R, C, SL, SR)出力端子 (ピンジャックX5)**

ハイビジョン放送の音声を出力する端子です。ソニーハイビジョン対応テレビのKW-3600HD、またはハイビジョン対応モニターPHM-3600のHDライン音声入力端子(ピンジャックX5)とつながります。

上記の機種他、ライン音声入力端子をもつ他の機器にもつなげます。本機ではMUSE 4チャンネルの各音声を、6ページのスピーカー配置例で示したように5つのスピーカーで聞くのにふさわしい次のような内容にしています。

- 左：2チャンネル・ステレオ放送時のL側音声信号を出力します。
- 右：2チャンネル・ステレオ放送時のR側音声信号を出力します。

テレビやモニターまたはアンプなどにつなぐスピーカーが2つしかない場合は、上記の2つの端子に接続することをおすすめします。そのときは、前面のHD AUDIO OUT切り換えスイッチをLRの方に切り換えてください。

次の3つの信号を混合して出力します。

**センター**：3チャンネルステレオまたは4チャンネル(3-1)ステレオ放送時のセンター音声信号を出力します。

**サラウンド左**：4チャンネルステレオ放送時の後方または後方L側音声信号を出力します。

**サラウンド右**：4チャンネルステレオ放送時の後方または後方R側音声信号を出力します。

上記5つとも接続した場合は、前面のHD AUDIO OUT切り換えスイッチをLRCSL SRの方に切り換えてください。

17 HDラ  
HDラ  
HDラ  
力する  
GBR開

18 HDラ  
映像(1  
・Y/C  
HDラ  
(マル  
ハイビ  
ン対応  
縮され  
ードさ  
ターは  
ともつ  
Vb端子  
ます。  
モード  
YPbPr  
つの同

19 外部入  
MUSE  
えられ  
ぎ、M

**17 HDライン出力1/GBR・Y<sub>B</sub>P<sub>R</sub>切り換えスイッチ  
HDライン出力2/GBR・Y<sub>B</sub>P<sub>R</sub>切り換えスイッチ**

HDライン出力1、またはHDライン出力2の映像出力端子から出力する映像信号を、Y<sub>B</sub>P<sub>R</sub>形式で出力したいときはY<sub>B</sub>P<sub>R</sub>側に、GBR形式で出力したいときはGBR側にしてください。

**18 HDライン出力1(画面表示有Y<sub>B</sub>P<sub>R</sub>)/  
映像(HDマルチ出力) 端子 (マルチコネクター)  
・Y/G、P<sub>B</sub>/B、P<sub>R</sub>/R、H<sub>D</sub>、V<sub>D</sub> (BNCコネクター)  
HDライン出力2/映像(HDマルチ出力)端子  
(マルチコネクター)**

ハイビジョン放送の映像信号を出力する端子です。ハイビジョン対応のテレビ/モニターとつなぎます。MUSE方式で帯域圧縮された信号 (MUSE信号) が、もとのハイビジョン信号にデコードされ出力されます。HDライン出力1と2のマルチコネクターは、同じマルチコネクターをもつハイビジョン対応の機器ともつなげます。HDライン出力1のY/G、P<sub>B</sub>/B、P<sub>R</sub>/R、H<sub>D</sub>、V<sub>D</sub>端子も、同じ端子群をもつハイビジョン対応の機器とつなげます。HDライン出力1の2つの映像出力にはチャンネルや音声モード、メニューなどの画面表示が出力されます(ただしGBR/Y<sub>B</sub>P<sub>R</sub>切り換えスイッチをY<sub>B</sub>P<sub>R</sub>にしたときのみ)。なお、3つの同時使用が可能です。

**19 外部入力/MUSE入力端子 (ピンジャック)**

MUSE信号を出力するビデオディスクプレーヤー、将来的に考えられている外部チューナー、ディスクランブラーなどつなぎ、MUSE信号を入力する端子です。

**20 外部入力/AFC入出力端子 (ピンジャック)**

MUSE信号を出力する外部チューナー、またはディスクランブラーを本機につなぐときに接続する端子です。15の切り換えスイッチによって外部チューナーの場合はAFC出力に、ディスクランブラーの場合はAFC入力に切り換わります。

**21 外部入力/MUSE出力(検波出力)端子(ピンジャック)**

ディスクランブラーと接続するとき、または MUSE ビデオデッキと接続するとき使います。

**22 外部入力/DOS入力端子 (ピンジャック)**

ハイビジョンのMUSE信号を出力するビデオディスクを本機につなぐときに接続する端子です。なお、ビデオディスク側にDOS出力端子がない場合は接続する必要はありません。

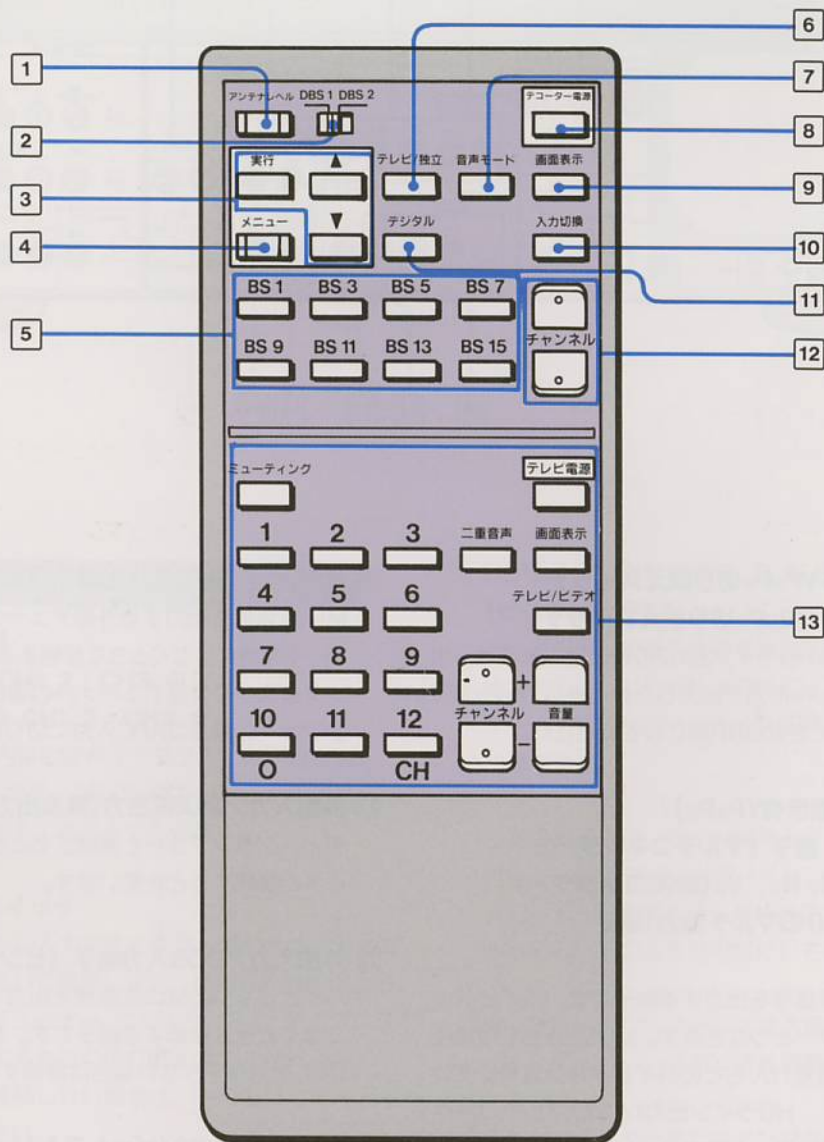
**23 HDライン出力2/ビットストリーム出力端子(ピンジャック)**

将来的に考えられているデータサービス用の信号を出力する端子です。音声出力の識別コードがはいっていますので、将来のハイビジョン用ビデオなどとの接続時には、音声出力とともに接続します。

**24 HDライン出力2/音声出力端子 チャンネル CH 1-4  
(ピンジャックX4)**

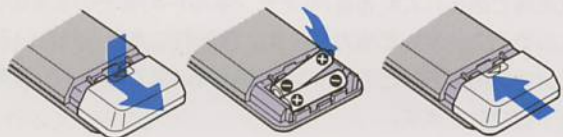
放送局で送られてくる音声(チャンネル1-4)をそのままのチャンネルでデコードして出力します。将来的に考えられているハイビジョン用VTRなどのチャンネル1から4までのライン音声入力端子とつなぎます。

## リモートコマンダー



- ① アンテナ  
BSアンテナ  
カシ
- ② DBS1/2  
本体の  
の位置  
で操作
- ③ 実行ボタ  
メニュー
- ④ メニュー  
メニュー  
作を終
- ⑤ ダイレク  
見たい  
すので  
できま
- ⑥ テレビ  
Aモー  
らかを
- ⑦ 音声モ  
ステレ  
レオの

### 電池の入れかた



単3形2本



#### 電池の交換時期は

ふつうの使いかたで約6か月もちます。電池が消耗するとボタンを押しても操作できないことがあります。

#### ご注意



乾電池  
ます。  
・⊕と  
・新し  
を混



**① アンテナレベルボタン**

BSアンテナの方向を調節するときに使います。また、本機に入力している信号のレベルを知ることができます。

**② DBS1/DBS2切り換えスイッチ**

本体のCOMMAND MODEスイッチとコマンダーのスイッチの位置が合うようにしてください。合っていませんとリモコンで操作できません。

**③ 実行ボタン、▲/▼ボタン**

メニュー画面で操作するときに使います。

**④ メニューボタン**

メニュー画面を出して操作するとき、およびメニュー画面の操作を終えるときに押します。

**⑤ ダイレクトチャンネルボタン**

見たいチャンネルを選びます。直接チャンネルボタンを押しますので、チャンネル設定されていないチャンネルも選ぶことができます。

**⑥ テレビ/独立音声切り換えボタン**

Aモードでテレビ音声と独立音声が両方送られてくるときどちらかを選びます。

**⑦ 音声モードボタン**

ステレオ放送および二重音声放送が行なわれているときにステレオの種類や主音声、副音声を選ぶボタンです。

**⑧ デコーダー電源ボタン**

本体の電源スイッチがONのとき、このボタンの入/切で本体を動作状態もしくはSTANDBY状態にします。

**⑨ 画面表示ボタン**

押すと画面表示が出たままになります。もう一度押すと消えます。ただしメニュー画面でDISPLAY OFFに設定されている場合は表示できません。

**⑩ 入力切換ボタン**

デコーダーのBS IF入力端子からの信号と、外部入力端子からの信号を切り換えるボタンです。


**⑪ デジタルボタン**

デジタル音声出力端子の信号を入/切します。

**⑫ チャンネル+/-ボタン**

押すとあらかじめ設定されたチャンネルが順に選べます。(チャンネルの設定⇒44ページ)

**⑬ テレビ用ボタン**

 マークのついた当社製テレビチューナーまたはカラーテレビの操作ができます。リモコンをテレビチューナーやテレビの受光部に向けて使います。

**ご注意**

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- ・⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- ・新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。

- ・乾電池は充電できません。
- ・長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出しておいてください。
- ・液もれが起こったときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。

# 接続の前に

## 手順について

# 1

「本機の主な特長」で述べたように、本機はMUSEデコーダーとBSチューナーとが一体になっています。ハイビジョン放送を受信するためには、まずBSアンテナの接続が必要です。また、放送以外のMUSE信号をデコードするには外部入力端子に接続します。

### BSアンテナを接続する場合

ハイビジョン放送、BS放送が見られます。

➡ 19、40ページ参照

### 外部入力端子に他の機器を接続する場合

接続した他の機器のMUSE信号の画像が見られます。

➡ 28ページ参照

# 2

ハイビジョンの映像を映し出すためにはハイビジョン対応テレビやモニターが必要です。デジタル音声を聞くためにもそれに応じた接続が必要です。下記を参考にしてお手持ちの機器に合わせて接続してください。

### ソニーのKW-3600HD、PHM-3600をお持ちの場合

ハイビジョン放送、BS放送、外部入力につないだMUSE信号の画像が見られます。

➡ 21ページ参照

### ソニーのプロジェクターHDIHシリーズまたはHDモニターHDMシリーズをお持ちの場合

(Y/G、P<sub>B</sub>/B、P<sub>R</sub>/R、H<sub>D</sub>、V<sub>D</sub>端子を持つ他の機器とつなぐ場合もここをご覧ください。)  
ハイビジョン放送、外部入力につないだMUSE信号の画像が見られます。

➡ 24ページ参照

### デジタルオーディオ機器をつなぐ場合

ハイビジョン放送、BS放送、外部入力につないだMUSE信号のデジタル音声が聞けます。

➡ 26ページ参照

# BSアンテナとの接続

BSアンテナを接続すれば、ハイビジョン放送、通常のBS放送がご覧になれます。  
接続についての詳しい説明は④ページをご覧ください。



ちょっと一言

ハイビジョン放送を受信するには、より高性能なアンテナ  
をご使用になることをおすすめします。

ご注意



**BS IF入力端子には**

専用BS同軸ケーブルをご使用ください。それ以外のコード  
をつなぎますと、本機を破損したり十分な特性が得られな  
い恐れがあります。

# 接続するときは

- 映像・音声接続用のプラグと端子は、黄・白・赤・灰・紫・黒・橙の色分けがしてあります。それぞれ色が合うようにつないでください。(53ページ参照)
- プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因になります。
- プラグを抜くときは、コードを引っ張らずに、プラグを持って抜き取ってください。
- 複数の機器をつないだら、お互いの干渉を防ぐために、お使いにならない機器の電源は切っておいてください。
- テレビ/モニターの画像や音に雑音が入るときは、つないだ機器とお互いを充分離してください。
- 機器によっては接続が異なる場合がありますので、接続する機器の説明書もあわせてご覧ください。

八

次のよ

使用

裏面

## a MUS

映像 (H

・ハイビ

応テレ

のPHM

ます。

・上記の

応機器

## b HDラ

aの映像出

きはYPbP

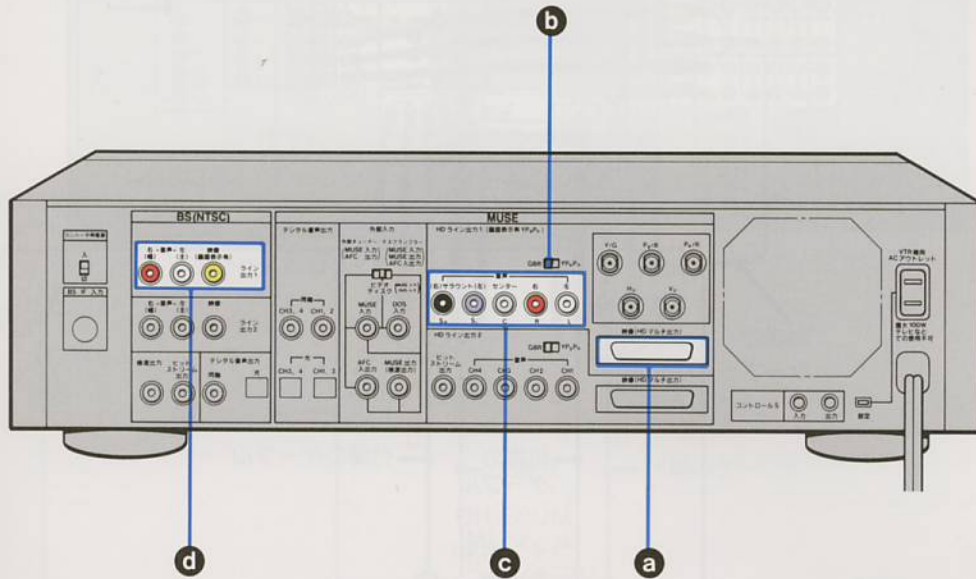
す。YPbP

# ハイビジョン対応テレビ/モニターとの接続

次のような接続により、BSチャンネルを使用してのハイビジョン放送と他のBSチャンネルの放送がご覧になります。

## 使用する端子とその働き

裏面



### a MUSE/HDライン出力1(画面表示有YPbPr) / 映像(HDマルチ出力)端子(マルチコネクター)

- ・ハイビジョンの映像を見るために、ソニーのハイビジョン対応テレビのKW-3600HD、またはハイビジョン対応モニターのPHM-3600の、映像入力端子(マルチコネクター)とつなぎます。
- ・上記の機種のほか、マルチコネクターを持つハイビジョン対応機器ともつなげます。

### b HDライン出力1/GBR・YPbPr切り換えスイッチ

aの映像出力端子からの映像信号をYPbPr形式で出力したいときはYPbPr側に、GBR形式で出力したいときはGBR側にします。YPbPr側にすると、画面表示が出るようになって便利です。

### c MUSE/HDライン出力1/音声(L、R、C、SL、SR)出力端子(ピンジャックX5)

- ・ハイビジョンの音声を出力する端子です。
- ・ソニーハイビジョン対応テレビのKW-3600HDまたはハイビジョン対応モニターのPHM-3600のHDライン音声入力端子(ピンジャックX5)とつなぎます。
- ・5つの端子の詳しい説明については14ページをご覧ください。

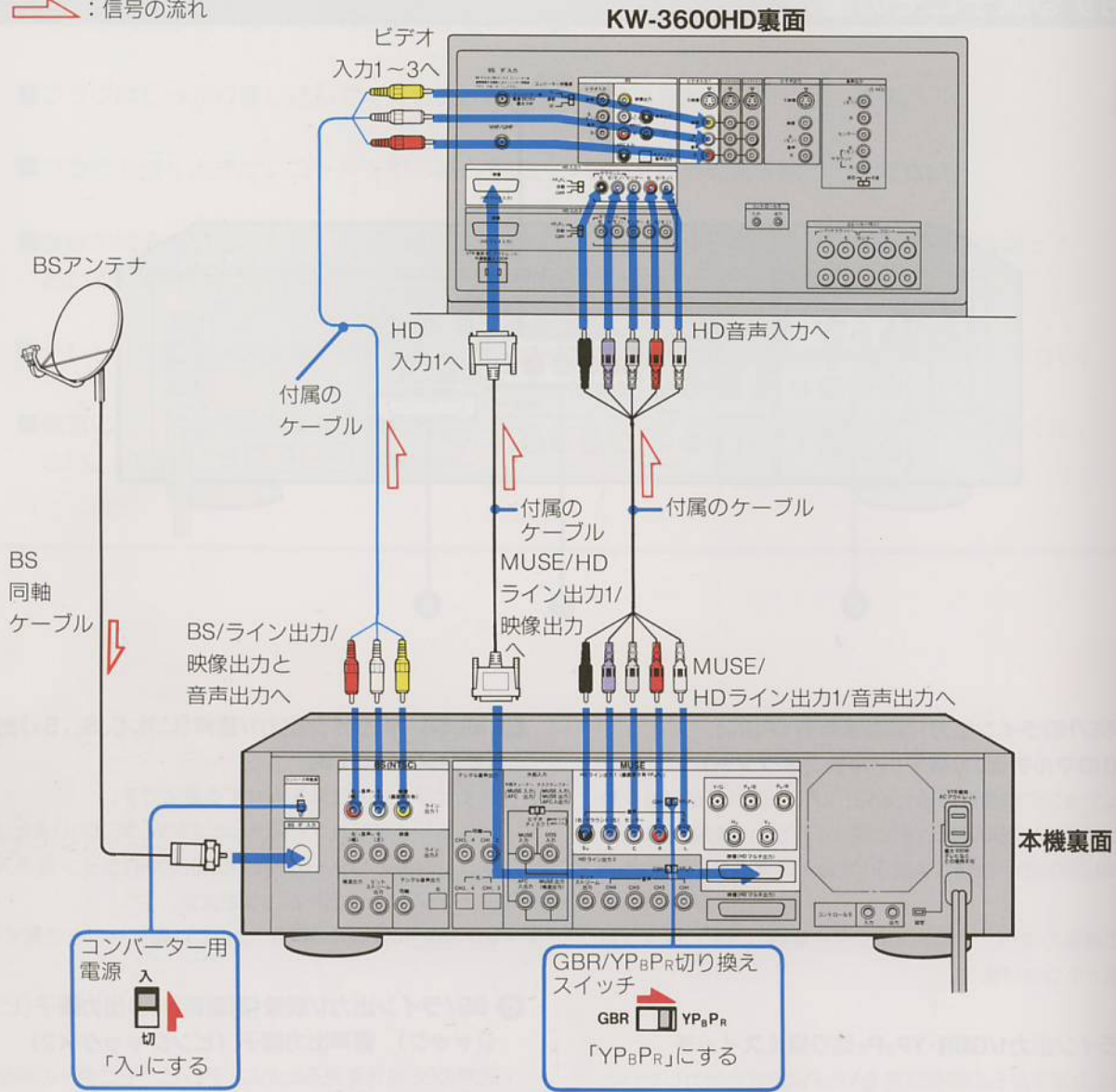
### d BS/ライン出力1/映像(画面表示有)出力端子(ピンジャック) 音声出力端子(ピンジャックX2)

- ・通常のBS放送を見るために、テレビ/モニターの映像、音声入力端子とつなぎます。映像は、通常のコンポジットビデオ(NTSC)信号が出力されます。
- ・つないだテレビ/モニターの画面にチャンネルや音声モード、メニューなどの画面表示が出るようになります。

▶ 接続図は次ページです

# ハイビジョン対応テレビ KW-3600HDとつなぐには

➡ : 信号の流れ



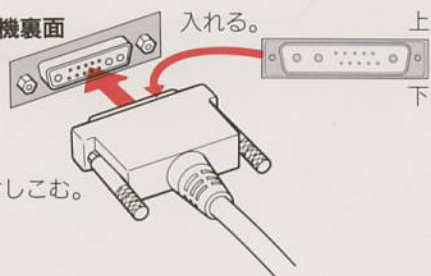
## HDマルチケーブルのつなぎかた

1

本機裏面

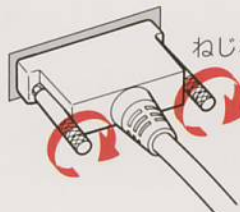
コネクタをこの向きで  
入れる。上  
下

奥までさしこむ。



2

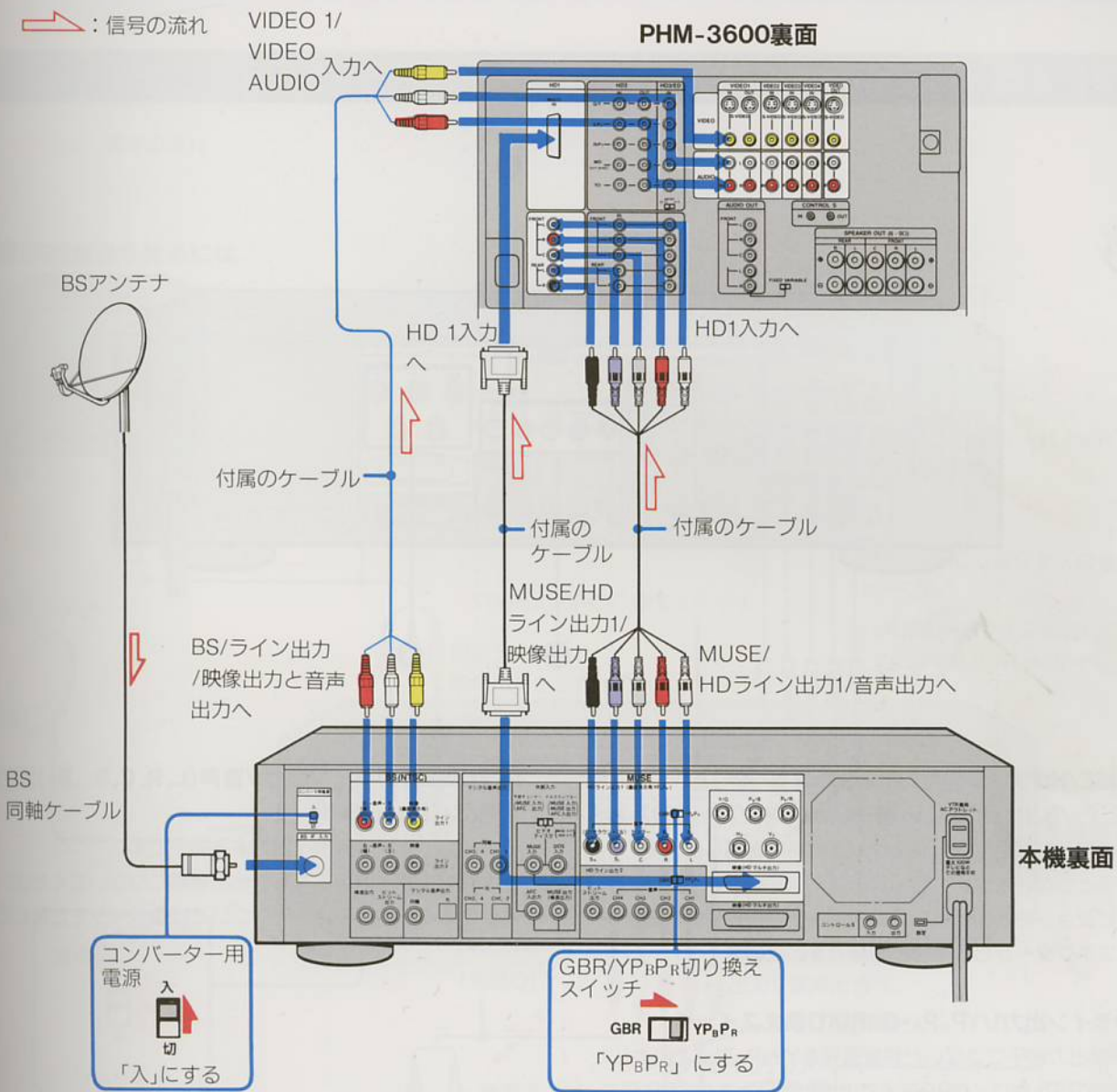
ねじを回す。



外すときは

ねじを反対側に回した後コネクタを本体よりぬいてください。また、ぬくときはコネクタ部分を持って引きぬいてください。

# ハイビジョン対応モニター PHM-3600とつなぐには



接続

ハイビジョン対応テレビ/モニター

ちょっと一言

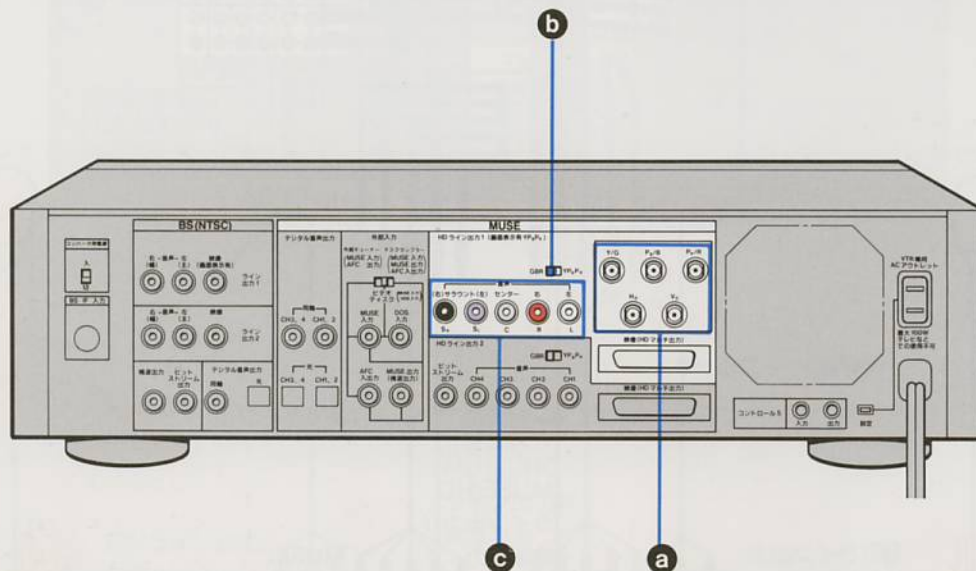
## スピーカー接続について

詳しい説明はテレビ/モニターの取扱説明書をご覧ください。  
スピーカーが2台の場合はMUSE/HDライン出力1の音声出力端子のLRIに接続してください (14ページ参照)。

# プロジェクターHDIHシリーズ、またはDモ.

次のような接続によりBSチャンネルを使用してのハイビジョン放送がご覧になれます。  
Y/G、P<sub>B</sub>/B、P<sub>R</sub>/R、H<sub>D</sub>、V<sub>D</sub>入力端子を持つものであればこの接続をしてください。

## 使用する端子とその働き



### **a** MUSE/HDライン出力1(画面表示有YP<sub>B</sub>P<sub>R</sub>)/ Y/G、P<sub>B</sub>/B、P<sub>R</sub>/R、H<sub>D</sub>、V<sub>D</sub>端子(BNCコネクターX5)

- ・高精細度テレビジョン方式スタジオ規格に準拠した機器の入力端子とつながります。
- ・ハイビジョンの映像信号を出力する端子で、信号の内容はマルチコネクターからのものと同様です。(14ページ)

### **b** HDライン出力1/YP<sub>B</sub>P<sub>R</sub>・GBR切り換えスイッチ

**a** の映像出力端子につないだ映像信号をYP<sub>B</sub>P<sub>R</sub>形式で出力したいときはYP<sub>B</sub>P<sub>R</sub>側に、GBR形式で出力したいときはGBR側にしてください。YP<sub>B</sub>P<sub>R</sub>側にすると画面表示が出るようになって便利です。

### **c** MUSE/HDライン出力1/音声(L、R、C、S<sub>L</sub>、S<sub>R</sub>)出力端子 (ピンジャックX5)

- ・ハイビジョンの音声を出力する端子です。
- ・ライン音声入力端子をもつ他の機器につないでください。
- ・5つの端子の詳細い説明については14ページをご覧ください。

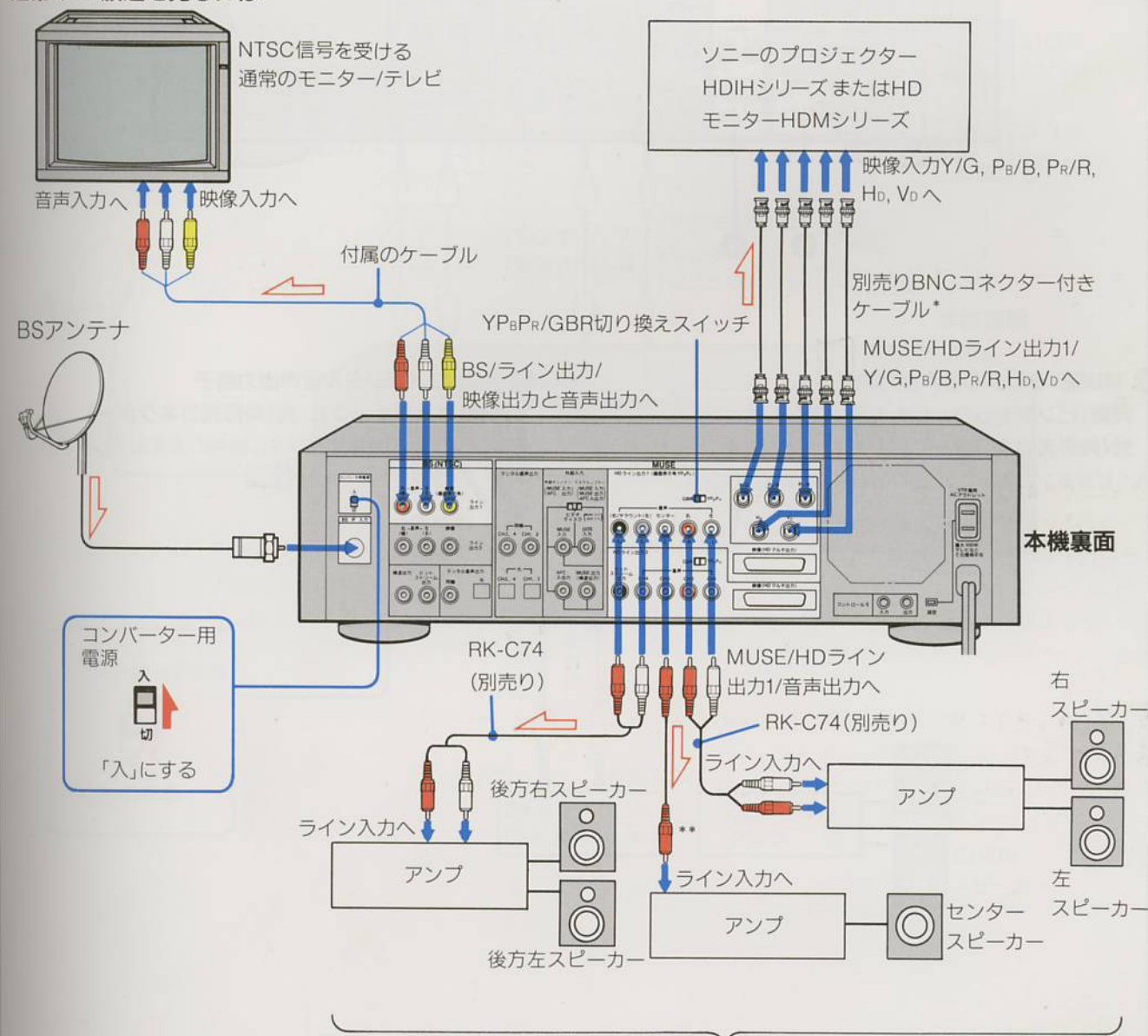


# はDモニターHDMシリーズとの接続

## 接続のしかた

：信号の流れ

通常のBS放送を見るには



音声を聞くには

- \* BNCコネクター付きケーブルは、長さが同じものをお使いください。
- \*\* RK-C74(別売り)のケーブルをご利用できます。赤いプラグで片方をつないだ場合、片方も赤いプラグでつなぐようにしてください。

接続

プロジェクターHDIHシリーズ、またはHDモニターHDMシリーズとの接続

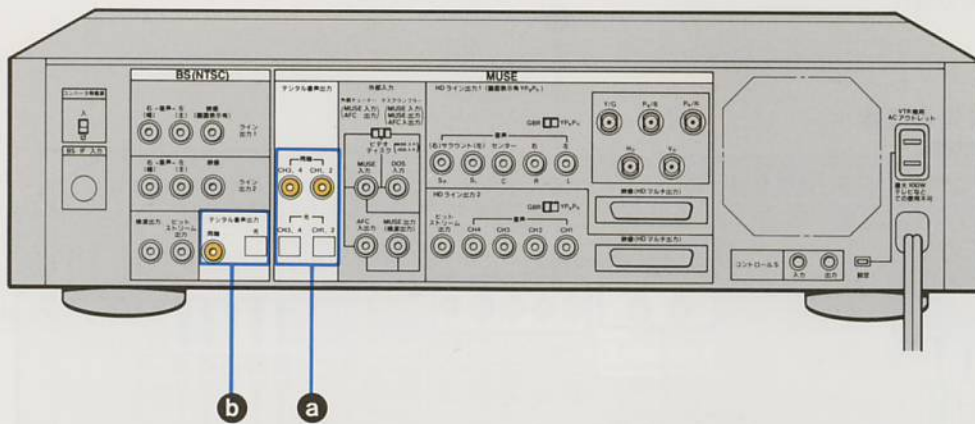
端子

さい。

# デジタルオーディオ機器との接続

デジタル音声信号が出ている場合、お手持ちのデジタルオーディオ機器と接続することにより、さらに良い音でお楽しみいただけます。

## 使用する端子とその働き



**a** MUSE/デジタル音声出力端子


同軸(ピンジャック) チャンネル CH 1, 2 チャンネル CH 3, 4  
 光(角形光コネクター) チャンネル CH 1, 2 チャンネル CH 3, 4

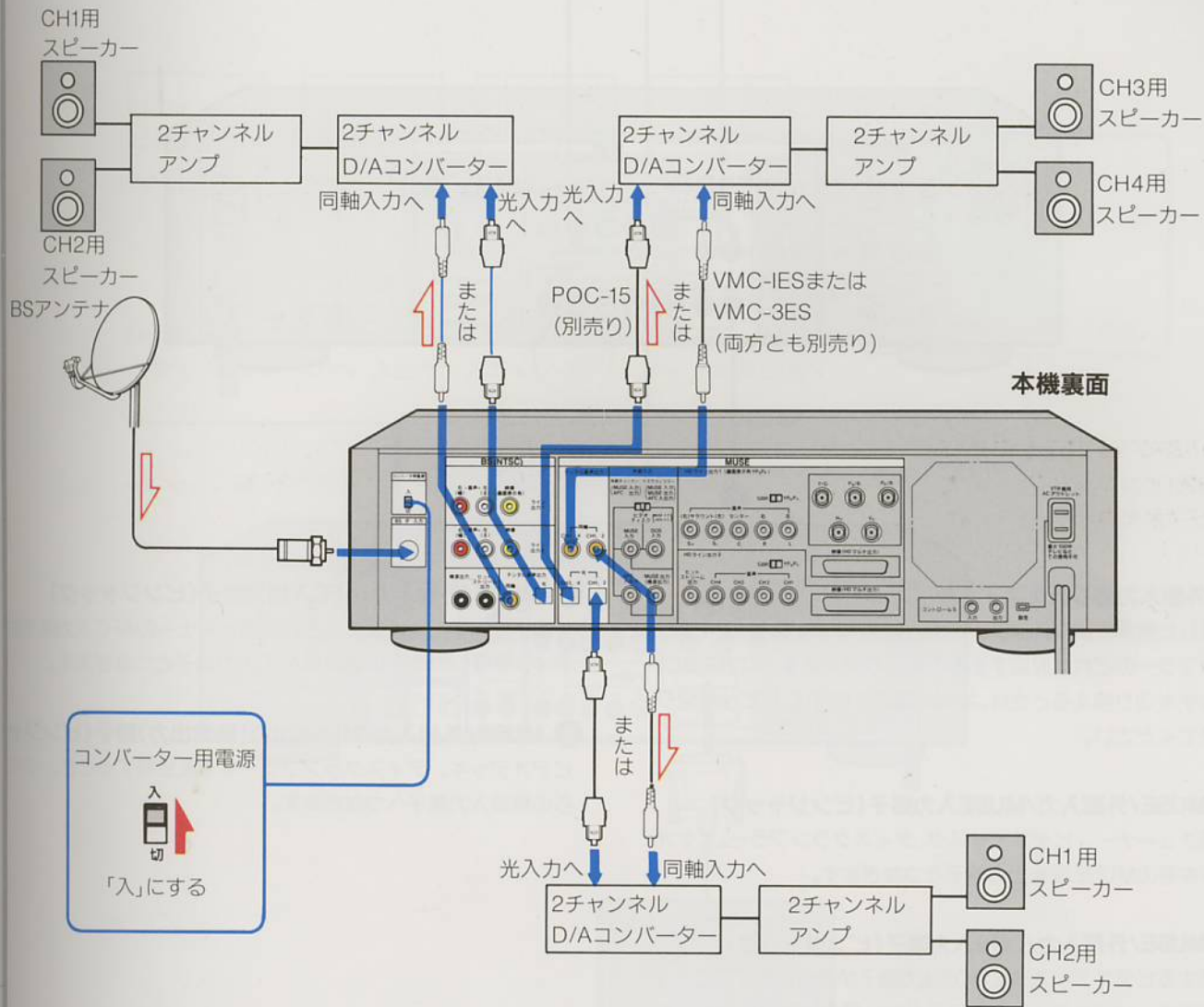
ハイビジョンの音声をデジタル信号のまま出力します。

**b** BS出力/デジタル音声出力端子

同軸(ピンジャック)、光(角形光コネクター)  
 通常のBS放送の音声をデジタル信号のまま出力します。

# 接続のしかた

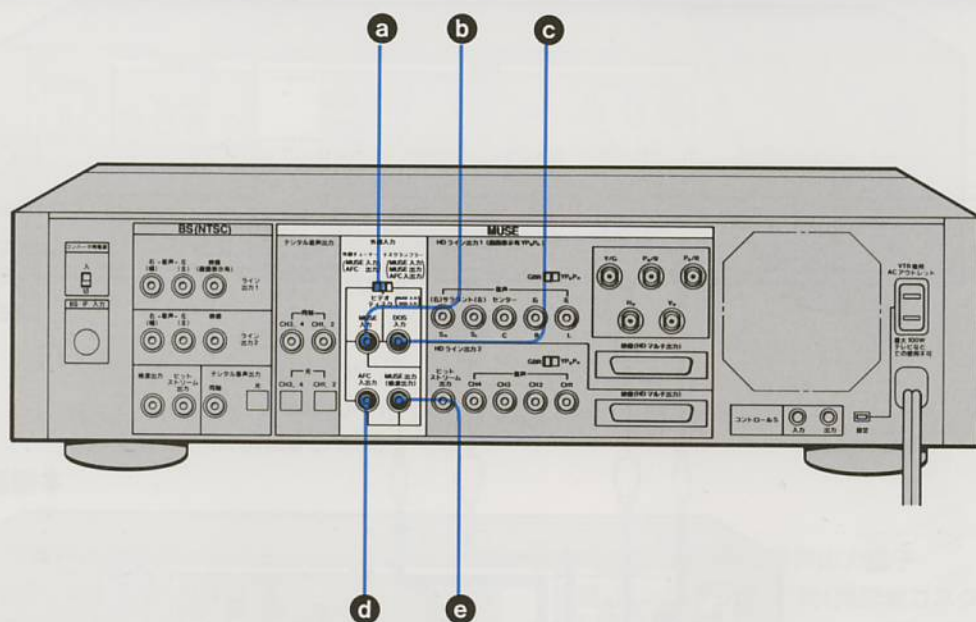
 : 信号の流れ



# 将来的に考えられるシステムとの接続

次のような接続により本機をMUSEデコーダーとして使用することができます。外部入力端子に、MUSEビデオディスクプレーヤー、将来的に出ると考えられるハイビジョン関連機器、例えばMUSE用チューナー、MUSEビデオデッキ、ディスクランブラーをつなぎ、MUSE信号を本機でデコードさせます。

## 使用する端子とその働き



### a 外部入力切り換えスイッチ

接続した機器により外部チューナー、ビデオディスク、ディスクランブラーのどれかに対応するものに切り換えます。なおこのスイッチを切り換えるときは、本体の電源をOFFにしてから切り換えてください。

### b MUSE/外部入力/MUSE入力端子(ピンジャック)

外部チューナー、ビデオディスク、ディスクランブラー、ビデオデッキ等のMUSE信号出力端子とつなぎます。

### c MUSE/外部入力/DOS入力端子(ピンジャック)

接続するビデオディスクにDOS出力端子がある場合にここへつなぎます。ビデオディスクに端子がない場合は接続しなくても結構です。

### d MUSE/外部入力/AFC入出力端子(ピンジャック)

外部チューナーを接続するときはチューナーのAFC入力端子に、ディスクランブラーの場合はAFC出力端子とつなぎます。

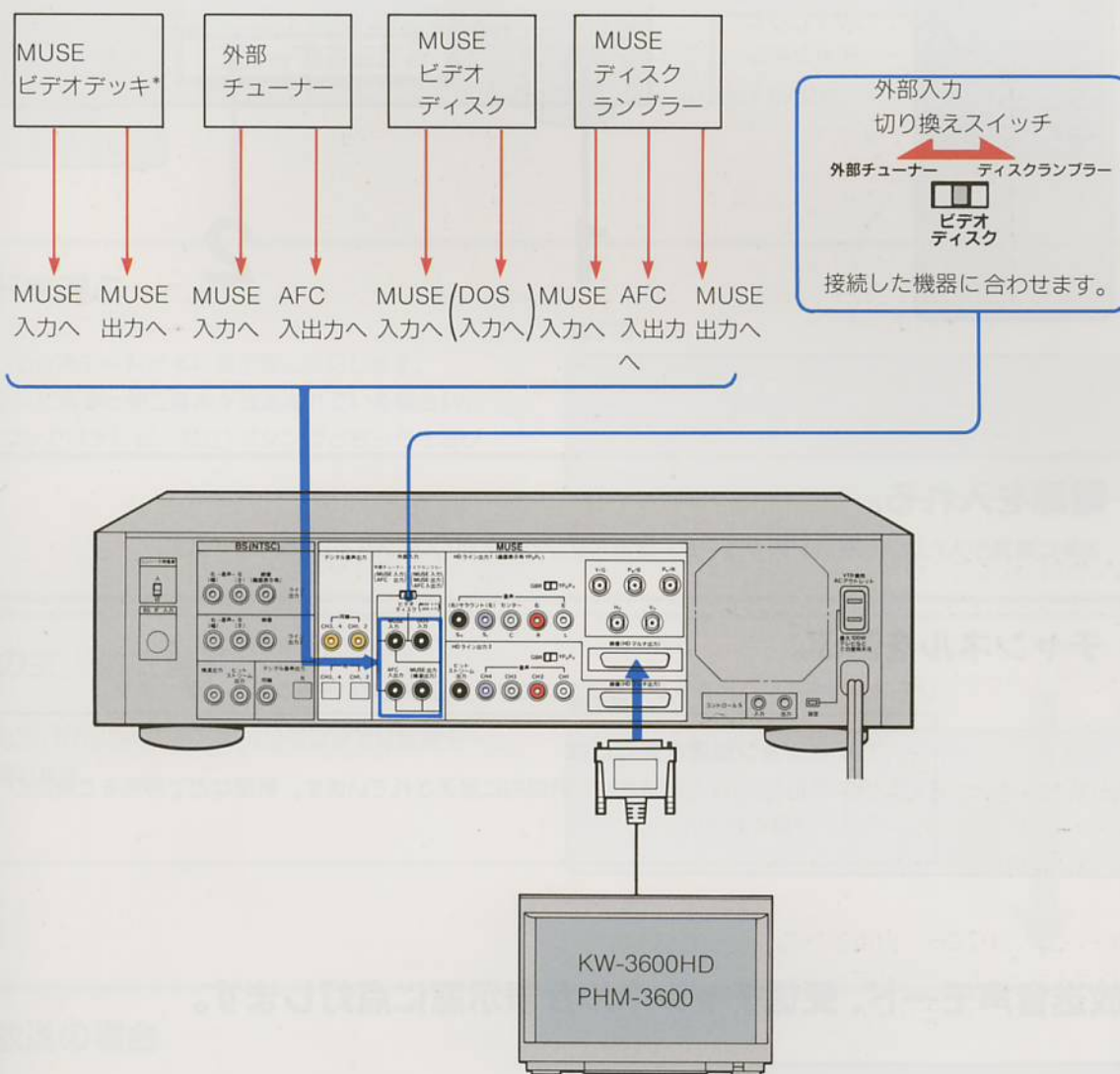
### e MUSE/外部入力/MUSE出力(検波出力)端子(ピンジャック)

ビデオデッキ、ディスクランブラーなどを接続するとき、それらの検波入力端子へつなぎます。

ちょっと一言

この項目で出てくる外部チューナー、ビデオデッキ、ディスクランブラーはMUSE信号を出力するもので、将来的に出ると予想されるものです。まだ現在は商品化されていませんのでご了承ください。

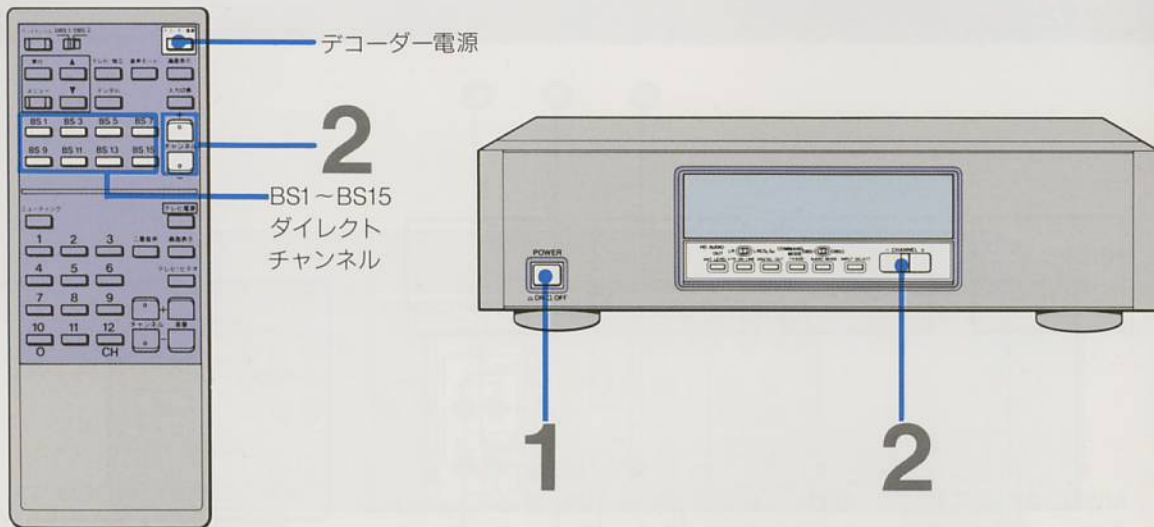
接続のしかた



\* ビデオデッキの場合は、本機のMUSE入力端子とMUSE出力（検波出力）端子につなぎ、入力切り換えスイッチは「ビデオディスク」に合わせてください。

# ハイビジョン放送、従来のBS放送を見こは

はじめにテレビ/モニターの電源を入れ、本機からの画像が見られるようテレビ/モニターの入力切り換えを合わせてください。



## 1 電源を入れる。

本体に電源が入れば、リモコンのデコーダー電源ボタンで入/切(スタンバイ)が操作できます。

## 2 チャンネルを選ぶ。

リモコンのダイレクトチャンネルボタンですと、直接見たいチャンネルが選べます。

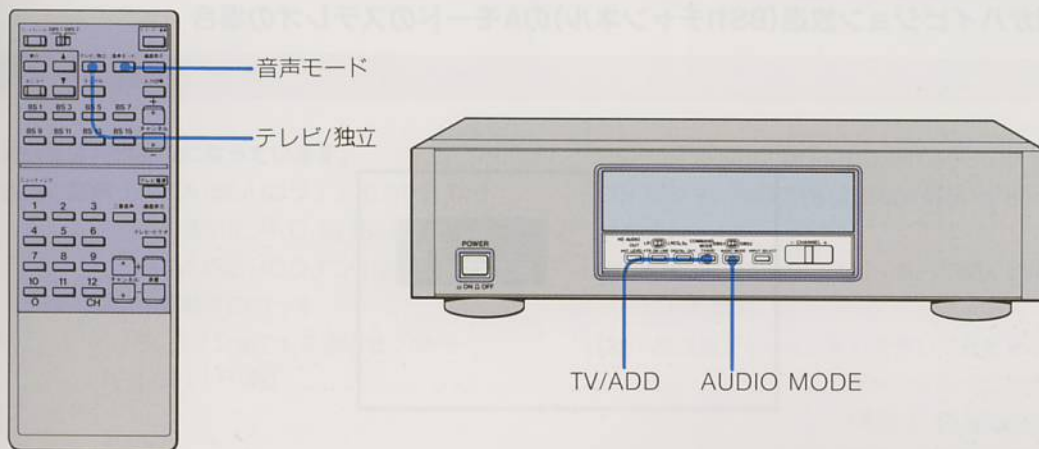
### ハイビジョン放送を見るには

1990年現在BS11で限定された時間内に放送されています。新聞などで時刻をご確認のうえ、ご覧ください。

放送音声モード、受信チャンネルが表示窓に点灯します。



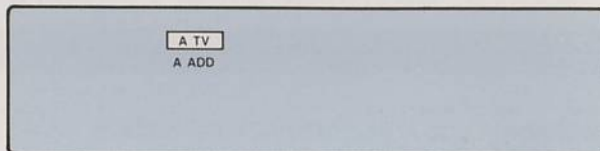
## 好みの音声を選ぶには



### 音声モードを選ぶ

- ・放送されている音声モードが本体表示窓に点灯します。
- ・Aモードでテレビ音声と独立音声が放送されている場合TV/ADD（リモコンではテレビ/独立）ボタンでどちらかを選びます。

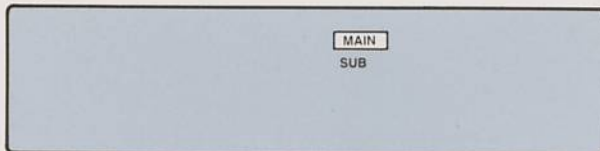
表示窓



### 二重音声の主/副を選ぶ

主(MAIN)副(SUB)をAUDIO MODE（リモコンでは音声モード）ボタンで選びます。

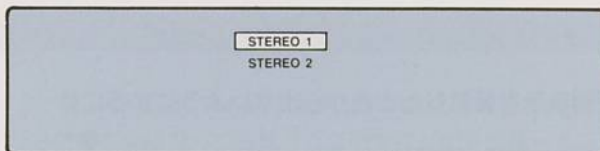
表示窓



### ステレオ放送の場合

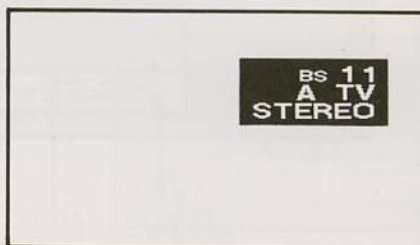
表示が自動的に点灯します。ステレオの表示が複数点灯したときは、AUDIO MODE（リモコンでは音声モード）ボタンで選びます。

表示窓



## テレビ/モニターの画面表示

**例** 選んだ番組がハイビジョン放送(BS11チャンネル)のAモードのステレオの場合



画面表示は、電源を入れた後約30秒間、チャンネルや音声モード切り換え後は約3秒間点灯し、その後自動的に消えます。

ちょっと一言

### 画面表示を出したままにするには

リモコンの画面表示ボタンを押してください。もう一度押すと元の状態に戻ります。

### 画面表示を受信したときから出ないようにするには

メニュー画面を出して操作してください。詳しくは④ページをご覧ください。

### NTSCのテレビ/モニターとハイビジョン対応モニターをつないでいるとき

画面表示がNTSC側とハイビジョン側両方に出力されることはありません。本体で検知して映像信号のある方に表示が出ます。両方に信号がある場合またはない場合は、ハイビジョン側に表示が出ます。



## 音声について

### 本機の音声出力端子

本機の音声出力端子は次のようになっています。

- ハイビジョン放送の音声 (1) MUSE/HDライン出力1/音声出力端子(L、R、C、S<sub>L</sub>、S<sub>R</sub>)  
(2) MUSE/HDライン出力2/音声出力端子CH1~4
- BS放送の音声 BSライン出力1、2/音声出力端子  
L(主)：R(副)

BS放送の音声出力端子は両方同じ内容の信号が出力しますが、ハイビジョン放送の(1)(2)の端子は信号の処理のしかたが異なります。

(1)…(2)の内容を5つのスピーカーで聞くのにふさわしい内容にした信号

(2)…放送局が4チャンネル送信してきたそのままの信号  
チャンネル1と2を使用してステレオ1系統(L、R)を送ったり、モノラル2系統(主音声と副音声)を送ったりしています。チャンネル3、4もありますのでいろいろな組み合わせがあります。

### 音声モードとは?

・音声の伝送方式のことです。AモードとBモードの2種類あり、番組の内容によって使い分けられ、本機で自動的に切り換わります。

・なお、衛星放送の音声はPCMパルス コード モジュレーション(Pulse Code Modulation)変調のデジタル音声であるため、非常に高音質です。

#### AモードとBモードについて

モード	音 質	チャンネル数
A	FM放送とほぼ同等	4：テレビ音声L・R(現在放送されているテレビ番組の音声) 独立音声L・R(テレビ番組とは無関係な音声)
B	CD(コンパクトディスク)とほぼ同等	2：テレビ音声L・R

### ハイビジョン放送における各音声モードによる4チャンネルの内容とHDライン出力1との関係

- ・各音声モードでステレオ信号やモノラル信号がどのようになるかによって4チャンネルの内容が次ページの図のようになります。図には代表例だけのせてあります。
- ・4チャンネルの内容は5つのスピーカー用に組みかえられ、HDライン出力1の5つの端子から出力されます。どのように組みかえられていくのかも併わせて示してあります。

・次ページの表は将来的にシステムが商品化されたとき、MUSE信号を外部入力した際にも適用されます。

■Aモードの場合

C…センター、S…サラウンド、L<sub>F</sub>…前方ステレオL、R<sub>F</sub>…前方ステレオR、L<sub>B</sub>…後方ステレオL、R<sub>B</sub>…後方ステレオR

音声モード(Aモード)		HDライン出力2 各チャンネルの信号			
テレビ音声 (A TV)	独立音声 (A ADD)	CH1	CH2	CH3	CH4
ステレオ1系統	なし	L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	なし	なし
モノラル2系統	なし	主 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)	なし	なし
モノラル1系統	なし	主 (テレビ音声)	なし	なし	なし
ステレオ1系統	ステレオ1系統	L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	L (独立音声)	R (独立音声)
モノラル2系統	ステレオ1系統	主 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)	L (独立音声)	R (独立音声)
モノラル1系統	ステレオ1系統	主 (テレビ音声)	なし	L (独立音声)	R (独立音声)
なし	ステレオ1系統	なし	なし	L (独立音声)	R (独立音声)
ステレオ2系統	なし	L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	副L (テレビ音声)	副R (テレビ音声)
*4チャンネル (3-1)方式 ステレオ	なし	L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	C (テレビ音声)	S (テレビ音声)
4チャンネル (2-2)方式 ステレオ	なし	L <sub>F</sub> (テレビ音声)	R <sub>F</sub> (テレビ音声)	L <sub>B</sub> (テレビ音声)	R <sub>B</sub> (テレビ音声)
ステレオ1系統 + モノラル2系統	なし	L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	主 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)

ハイビジョン放送

HDライン出力1 各5端子の信号				
L	R	C	S <sub>L</sub>	S <sub>R</sub>
L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	主 (テレビ音声)	なし	なし	なし
副 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	主 (テレビ音声)	なし	なし	なし
L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	なし	なし	なし
L (独立音声)	R (独立音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	主 (テレビ音声)	なし	なし	なし
副 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)	なし	なし	なし
L (独立音声)	R (独立音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	主 (テレビ音声)	なし	なし	なし
L (独立音声)	R (独立音声)	なし	なし	なし
L (独立音声)	R (独立音声)	なし	なし	なし
L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	なし	なし	なし
副L (テレビ音声)	副R (テレビ音声)	なし	なし	なし
L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	C (テレビ音声)	S (テレビ音声)	S (テレビ音声)
L <sub>F</sub> (テレビ音声)	R <sub>F</sub> (テレビ音声)	なし	L <sub>B</sub> (テレビ音声)	R <sub>B</sub> (テレビ音声)
L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	なし	主 (テレビ音声)	主 (テレビ音声)
L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	なし	副 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)

ハイビジョン放送

上記の本機で  
\*スピ  
をLF  
信号  
れる

表

例 A

例 A

例 A

■Bモードの場合

ハイビジョン放送	音声モード(Bモード)	HDライン出力2 各チャンネルの信号				HDライン出力1 各5端子の信号				
	テレビ音声	CH1	CH2	CH3	CH4	L	R	C	SL	SR
	ステレオ1系統	L	R	なし	なし	L	R	なし	なし	なし
	モノラル2系統	主	副	なし	なし	主	主	なし	なし	なし
		副	副	なし	なし	副	副	なし	なし	なし
	モノラル1系統	主	なし	なし	なし	主	主	なし	なし	なし

上記の他ハイビジョンの場合多種類の音声形態が考えられます。  
本機ではそれら全てに対応しています。

\*スピーカーが2台のためHD AUDIO OUT 切り換えスイッチ  
をLR側にしたときC、SL、SR 各端子から出力されるべき音声  
信号は、L・R各チャンネルの音声信号と重なり合って出力さ  
れるようになります。

操作

ハイビジョン放送、従来のBS放送を見るには

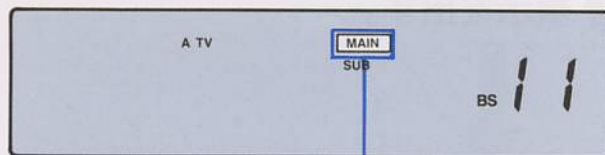
表示窓の表示

例 Aモードのテレビ音声、独立音声各々がステレオの場合



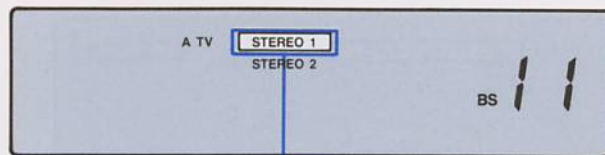
TV/ADDボタンで  表示の位置をかえて選択します。

例 Aモードのテレビ音声がモノラル2系統の場合



AUDIO MODEボタンで  表示の位置をかえて選択します。

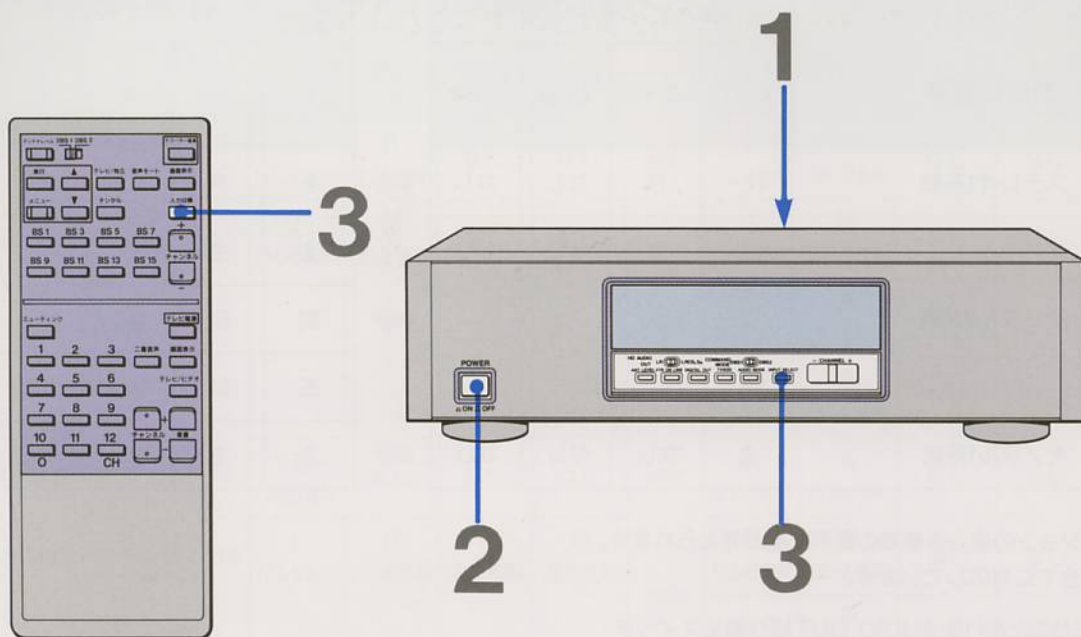
例 Aモードのテレビ音声ステレオ2系統の場合



AUDIO MODEボタンで  表示の位置をかえて選択します。

# 外部入力からのMUSE信号を見るには

将来的に考えられるハイビジョン関連機器を接続して、本機をMUSEデコーダーとして使用することもできます。  
まず、各機器と接続、テレビ/モニターの電源を入れてください。

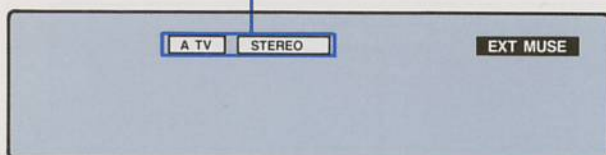


**1** 本機裏面の外部入力切り換えスイッチを、接続した機器に合わせる。

**2** 電源を入れる。

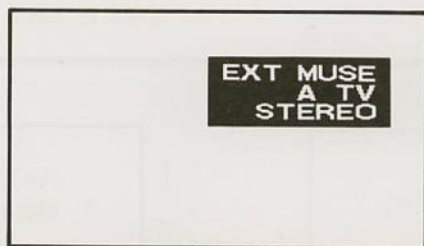
**3** 入力切換(INPUT SELECT)ボタンを押して表示窓に **EXT MUSE** 表示を出す。

音声モードと音声形態が、接続した機器からの信号によって点灯します。



## テレビ／モニターの画面表示

**例** 外部入力からのMUSE信号が、Aモードのテレビ音声でステレオの場合



▶ 便利な使いかたは次ページです

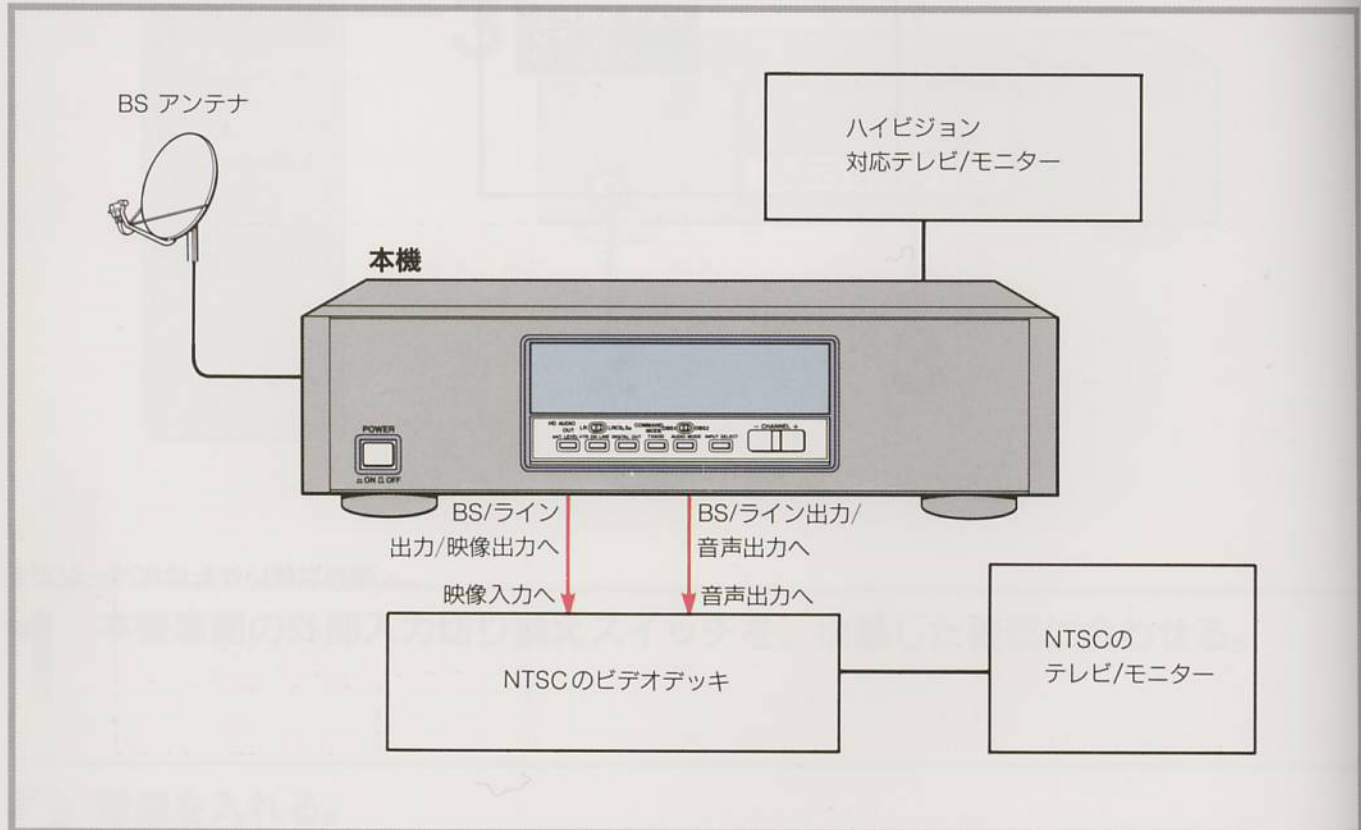
操作

外部入力からのMUSE信号を見るには

## 便利な使いかた

### 外部入力からの画像を見ながらBS放送を録画する

下のように各機器を接続すれば、本機内蔵のMUSEデコーダーを使用しながら通常のBS放送を録画することができます。



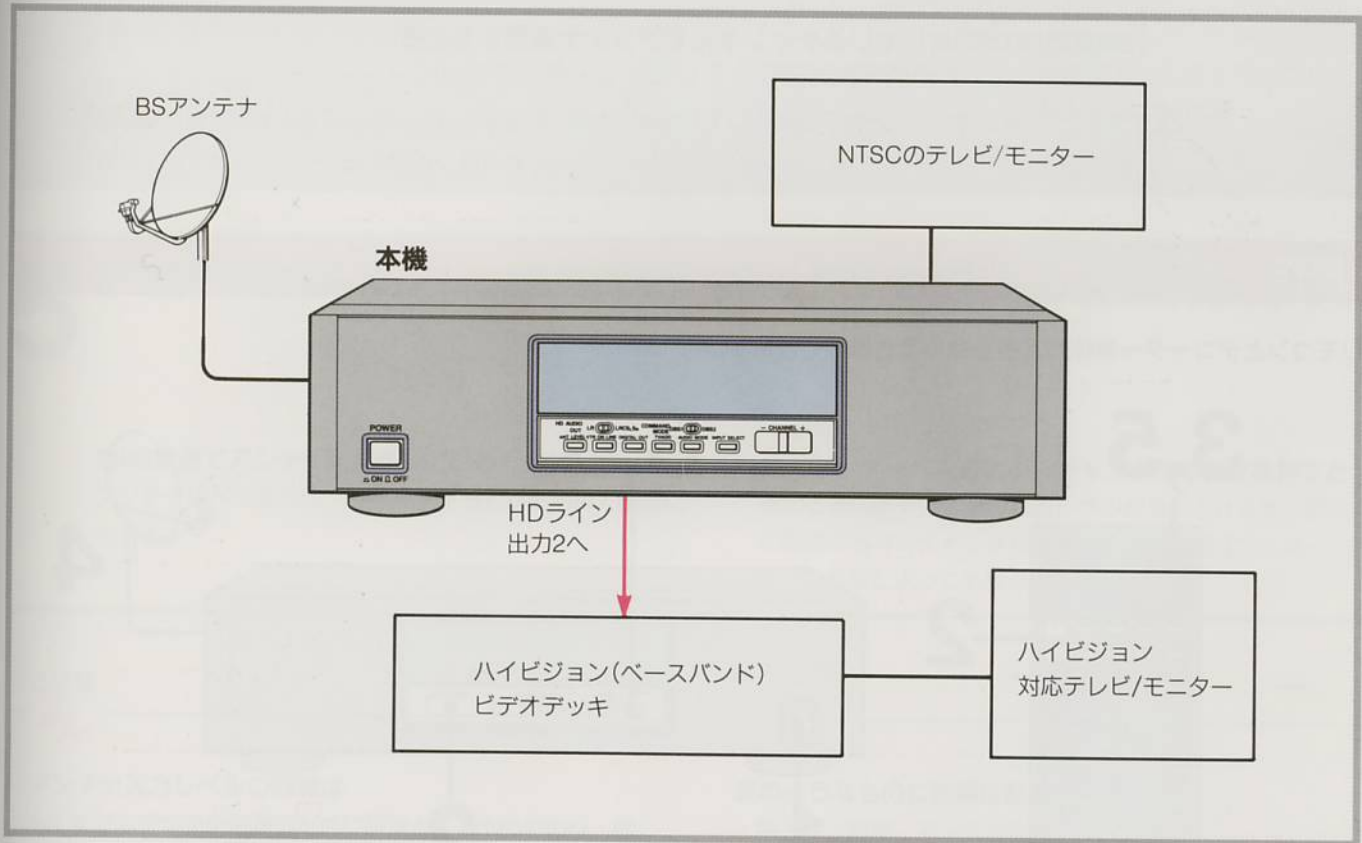
#### ご注意



INPUT SELECTボタンを切り換えるとき、一瞬BS放送の画像は途切れますが故障ではありません。

## BS放送を見ながら外部入力の画像を録画する

下のように各機器を接続すれば、本機内蔵のBSチューナーを使用しながら、外部入力からのMUSE信号をデコードしたハイビジョンのベースバンド信号を録画することができます。



操作

外部入力からのMUSE信号を見るには



ハイビジョン用ベースバンドのビデオデッキは将来的に考えられていますが1990年現在まだ商品化されていません。

# アンテナの方向／角度の調節

## 準備

まず、アンテナの調節をする前に次のことをご確認ください。

- 1 BSアンテナの設置をしておく。(詳しくはアンテナの説明書をご覧ください。)
- 2 本機とテレビ／モニターを正しく接続する。(40ページ～45ページ)
- 3 本機とテレビ／モニターは、画面表示の出る端子とつながれているかを確認する。

ハイビジョン放送をしているチャンネルでアンテナ調整するとき

HDライン出力1の映像出力端子をテレビ／モニターにつなぎ、YPbPr/GBR切り換えスイッチをYPbPr側にする。

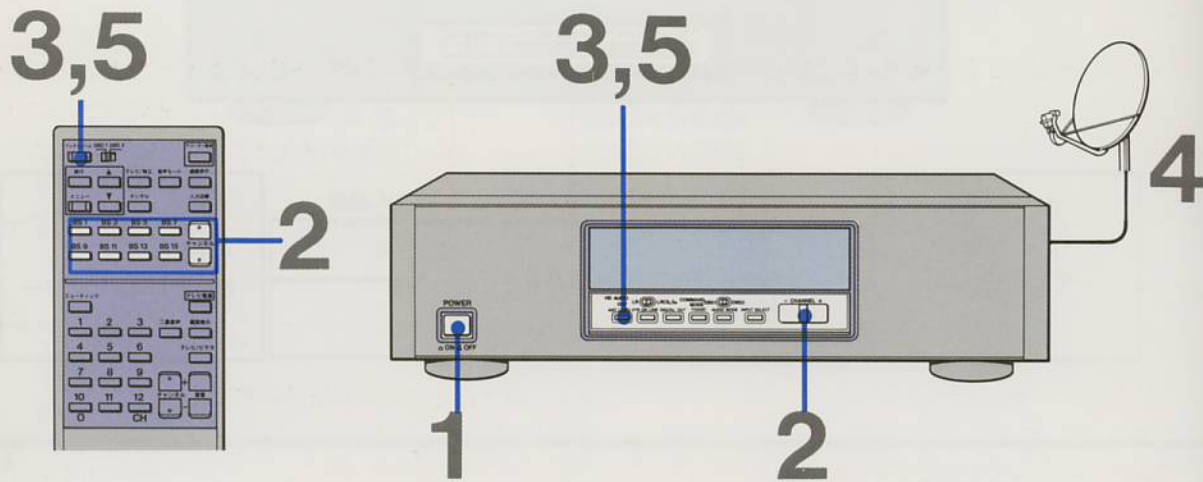
BS放送(NTSC)をしているチャンネルでアンテナ調整するとき

BS/ライン出力1の映像出力端子とテレビ／モニターをつなぐ。

- 4 テレビ／モニター、アンプ(接続しているときは)の音量は最小にしておいてから、電源を入れる。

## 操作

リモコンとデコーダー本体のどちらからでも操作できます。



**1** 電源を入れる。

**2** 放送されているチャンネルを選ぶ。  
(1990年11月現在、BS11または15チャンネル)

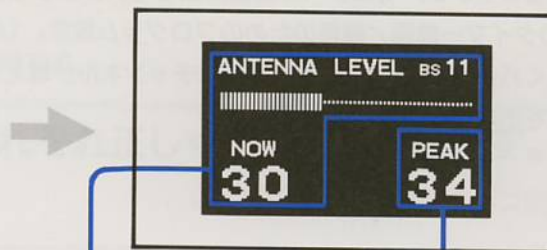
**3** アンテナレベルボタンを押す。  
アンテナレベル表示が画面に出ます。



## 4 アンテナレベルの数値が最大になるようにアンテナを動かす。

### 調節のコツ

最初に上下方向(仰角)を決め、次にゆっくり左右に回して方位角を決め最大値を探すようにします。詳しくはアンテナの取扱説明書をご覧ください。



現在の入力レベル  
右の値に近づくようにアンテナを調節する。

今まで入ってきた電波の中で  
最大の入力レベル  
これを目安にしてアンテナの方向を決める。

## 5 アンテナレベルボタンを押す。

→ アンテナレベル表示が消えます。

■BS放送でアンテナ調整をしているときは  
アンテナレベル表示は、信号が受かってから初めて画面に出ます。

■アンテナレベル表示中にチャンネルボタンを押すと  
そのときのチャンネルの入力レベルが表示されます。表示の数値は各々のチャンネルで違います。またBSコンバーターの性能によっても差が生じます

### ご注意

#### アンテナ入力レベルの数値は

あくまでもアンテナ設置のために目安とするものであり、画質や音質のレベルとは関係ありません。また、受信C/N比(受信信号電力対雑音電力比)を表わすものでもありません。

#### 数値の目安は

受信C/N比が14dBで、BSコンバーターと本機の間を30mのBSケーブルで直接つないだときには、通常15~35が表示されます。

#### 次のようなものに数値は影響されます

- ・雨、雪、温度、アンテナケーブルの長さ。
- ・時間によっても値は上がったり下がったりします。
- ・BSコンバーターと本機の間には分配器、直列ユニットなどを使用したことによる本機への入力レベル不足。(このようなときはBS IFブースターを使用してください。)

知  
つ  
て  
い  
る  
と  
便  
利

アンテナの方向/角度の調節

### ちょっと一言

#### 本体のSTANDBYランプが点滅するときは

アンテナレベルで、現在の入力レベルと今までの最大レベルが一致したときです。

# メニュー画面の使いかた

メニュー画面をテレビ/モニターの画面に出して次のようなことができます。

- ・BS放送のタイマー録画/録音のためのプログラム設定。(ハイビジョン放送のタイマー録画はできません。)
- ・将来新しくハイビジョン放送やBS放送のチャンネルが増えたときのチャンネル設定。
- ・画面表示を出なくなるようにする設定。

メニュー画面による操作は次のとおりです。

## タイマー録画するには

### 本機のVTR連動機能を使うとき

・本機にはVTR専用ACアウトレットが付いています。ビデオデッキの電源プラグをここにつないでおくと、ビデオデッキに電源が入ったとき、消費電力の増加からそれを検知して本機にも電源が入るようになります。ビデオデッキでタイマー予約しておけばその時刻になるとビデオデッキと本機の両方の電源が入り、BS放送の録画ができます。

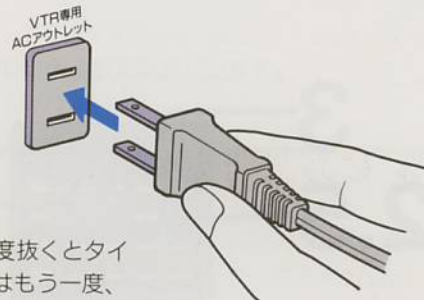
・操作は次の「設定準備」⇒「プログラムの設定」⇒「タイマー録画を予約する」とおすすみください。

## ■(1) 設定準備

ここでの準備は1回行なえばビデオデッキを取り換えない限り有効です。

# 1 本機とビデオデッキを映像、音声それぞれ正しく接続しておきます。

# 2 ビデオデッキの電源を切って電源プラグを本機裏面のVTR専用ACアウトレットにつなぎます。



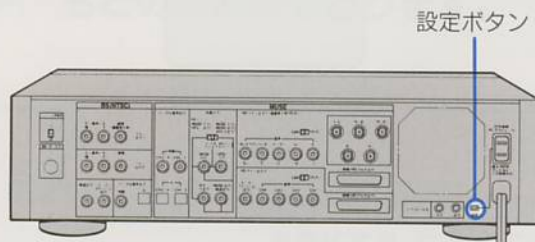
ビデオデッキによっては電源プラグを一度抜くとタイマーが止まる場合があります。そのときはもう一度、時計合わせを行ってください。

# 3 本機の電源を入れます。

ビデオデッキの電源が切れていることを確認してください。

# 4 本機裏面右下の設定ボタンを押します。

約10秒、表示窓でプログラムのランプが点滅し、ビデオデッキの電源切りの状態の消費電力が本機に記憶されます。(表示点滅中、ビデオデッキを操作しないでください)



ちょっと一言

### 設定ボタンを押すのは

ビデオデッキの電源プラグが差し込まれただけのときの消費電力を本機に記憶させるためです。これは実際にビデオデッキに電源が入ったときとの消費電力の差を本機が検出し、本機の電源を入れるしくみを働かせるためです。

### ご注意



- ・ビデオデッキに付いているACアウトレットには何もつながないでください。本機の故障やVTR連動機能の誤動作の原因となります。
- ・必ず、ビデオデッキの電源を切ってから設定ボタンを押してください。
- ・電源入/切時の消費電力の差が少ないビデオデッキなど、種類によっては正常にVTR連動による予約録画ができない場合があります。

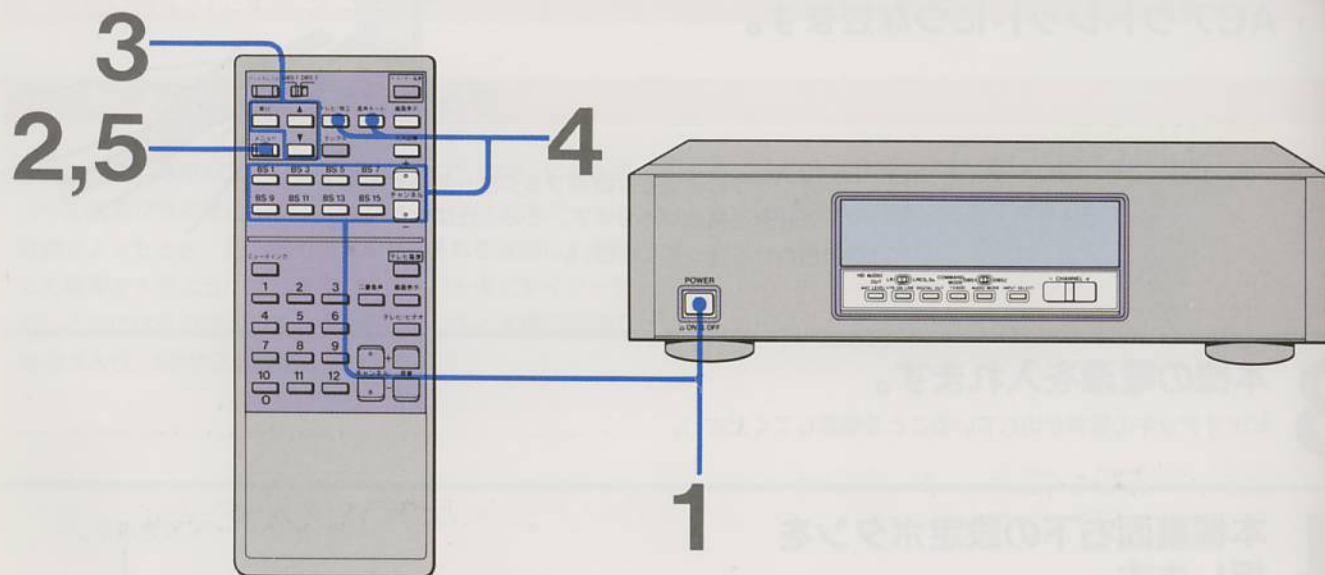
知っている  
と便利

メニュー画面の使いかた

## ■(2)プログラムの設定

- ・初めてVTR連動機能を使うときは、まず最初に前ページの「設定準備」を行なってください。
- ・本機でひとつのプログラム（番組）設定ができます。
- ・メニュー画面の設定に入る前に、ビデオデッキで録画時間、入力切り換えなど予約録画に必要な設定を行い、録画用テープを入れておいてください。

リモコンで操作してください。

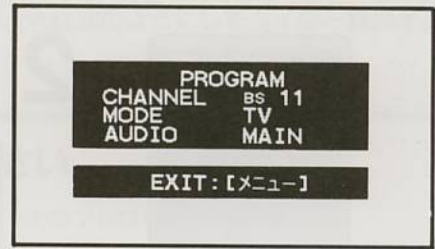


**1** 本機の電源を入れ、BS放送(NTSC)のチャンネルを選ぶ。

**2** メニューボタンを押す。



### 3 カーソル▶がPROGRAMにあることを確認し、実行ボタンを押す。



プログラム設定画面が出ます。

### 4 設定をします。

チャンネルボタンでCHANNELの内容を  
テレビ/独立ボタンでMODEの内容を  
音声モードボタンでAUDIOの内容を設定します。

### 5 設定が終わったら、メニューボタンを押します。

→ もとの画面にもどります。

→ 次ページの(3)「タイマー録画を予約する」におすすみください。

ご注意

ハイビジョン放送時のメニュー画面は  
プログラム設定の項目PROGRAM表示がありません。プログラムの設定は必ずBS放送(NTSC)の画面で行なってください。

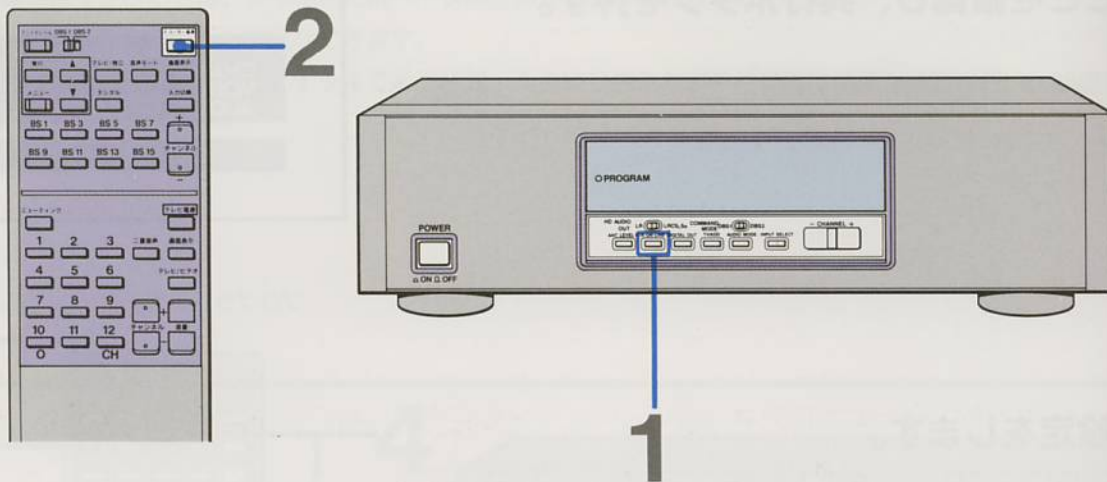


知っていると便利

メニュー画面の使いかた

### ■(3)タイマー録画を予約する

まず、本体が動作状態であることを確認してください。



**1** VTR ON LINE ボタンを押す。

表示窓



**2** リモコンの電源スイッチを押して電源を切る。

ビデオデッキで予約した時刻になるとビデオデッキと本機両方に電源が入り、録画が始まります。



ちょっと一言

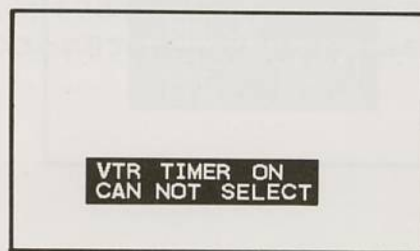
ビデオデッキに電源が入っても本機には入らないようにしたいとき

(本機に関係なくビデオデッキを使いたいときなど)

本機の電源を入れた状態でVTR ON LINEボタンを押して表示窓から「PROGRAM」の表示を消します。ビデオデッキを使ったあと、VTR ON LINEボタンを押して「PROGRAM」を表示させた後リモコンで電源を切ると、再び予約待機状態になります。

タイマー録画中に本機を操作するには

VTR連動によるタイマー録画中には、リモコンでのチャンネルや音声モードの操作はできません。このとき、画面には下のような表示が出ます。なお、本体での操作はできますので、必要なときは操作しても結構です。



## ビデオデッキのBSチューナーコントロール機能を使って

お手持ちのソニーのビデオデッキに、BSチューナーコントロール機能があるときは次のようにしてタイマー録画ができます。本体のCOMMAND MODEスイッチをDBS1側にしてください。

### 1 本機とビデオデッキを正しく接続してください。

- ・映像、音声の接続の他に本機のコントロールS入力端子とビデオデッキのコントロールS出力端子をつなぐ必要があります。
- ・本機とビデオデッキの電源は、それぞれ壁のコンセントからとります。

### 2 ビデオデッキでBSチューナー入力(BS LINE)を選び、録画したい時刻とBS放送のチャンネルを予約します。

- ・本機の電源が自動的に入ります。
- ・ビデオデッキの録画内容について詳しくは、ビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

### 3 ビデオデッキをタイマー録画スタンバイ状態にします。

本機とビデオデッキの電源が切れます。予約した時刻に両方の電源が入り、録画が始まります。

知  
っ  
て  
い  
る  
と  
便  
利

メ  
ニ  
ー  
画  
面  
の  
使  
い  
か  
た



ちょっと一言

#### 設定したモードや音声放送されていないとき

- ・モードで「独立」を設定しても独立音声放送されていないと、テレビ音声になります。
- ・音声で「主」や「副」を設定しても二重音声放送が行われていなくてステレオ、モノラル放送が行われていると、ステレオ、モノラル音声になります。

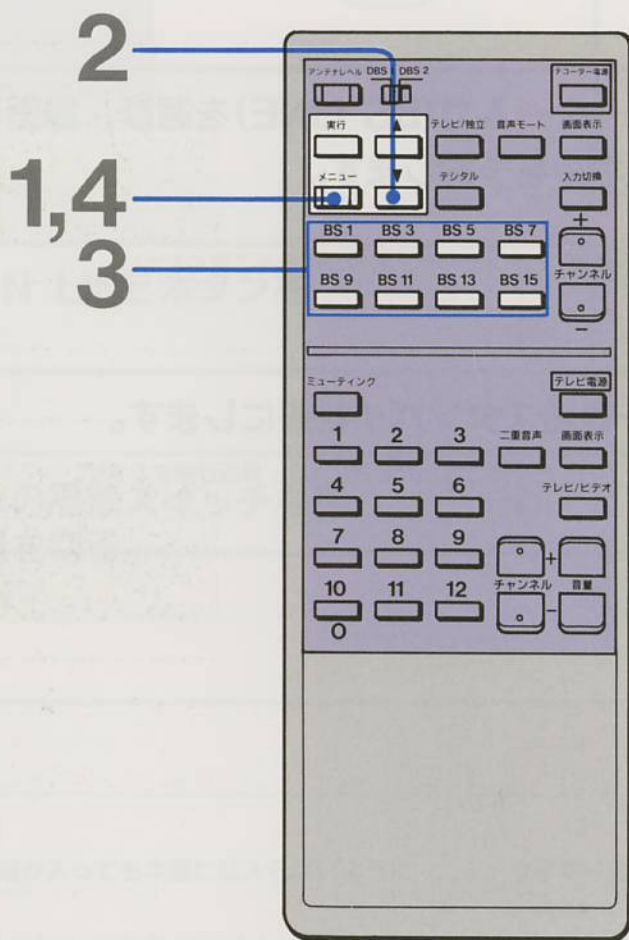
#### ハイビジョン放送を録画してしまうと

現在のNTSCのビデオデッキではノイズだけの画像が記録されます。音声は出ません。

## チャンネル設定するには

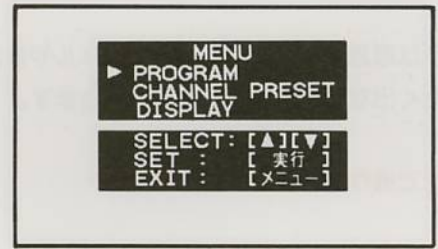
現在、BS放送のチャンネルはBS11、BS15の2チャンネルです。将来新しく増えたり、変わったりしたチャンネルを本体やリモコンのCHANNEL/チャンネルボタンで選べるようにするには次の操作を行なってください。ただしこの操作は行なわなくてもリモコンのダイレクトチャンネルボタンでチャンネルを選ぶことはできます。

リモコンで操作してください。

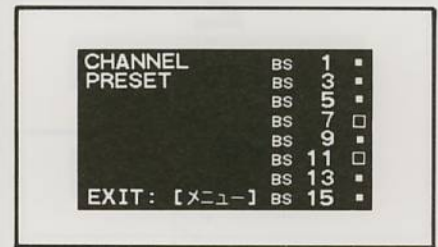




# 1 メニューボタンを押す。

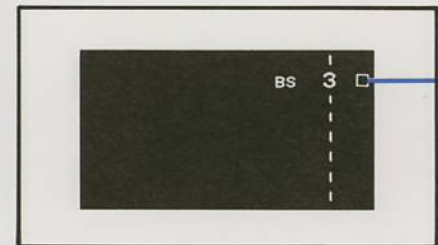


# 2 ▼ボタンでカーソル▶を CHANNEL PRESET に合わせ実行ボタンを押す。



# 3 設定したいチャンネルをダイレクトチャンネルで選ぶ。

- ... 設定されていないマーク
- ... 設定されているマーク



(例：BS3を押したとき)

これで新しいチャンネルBS3が設定されました。

もとの状態に戻りたいときは再度リモコンのダイレクトチャンネルボタンを押します。

# 4 設定が終わったらメニューボタンを押します。

もとの画面に戻ります。

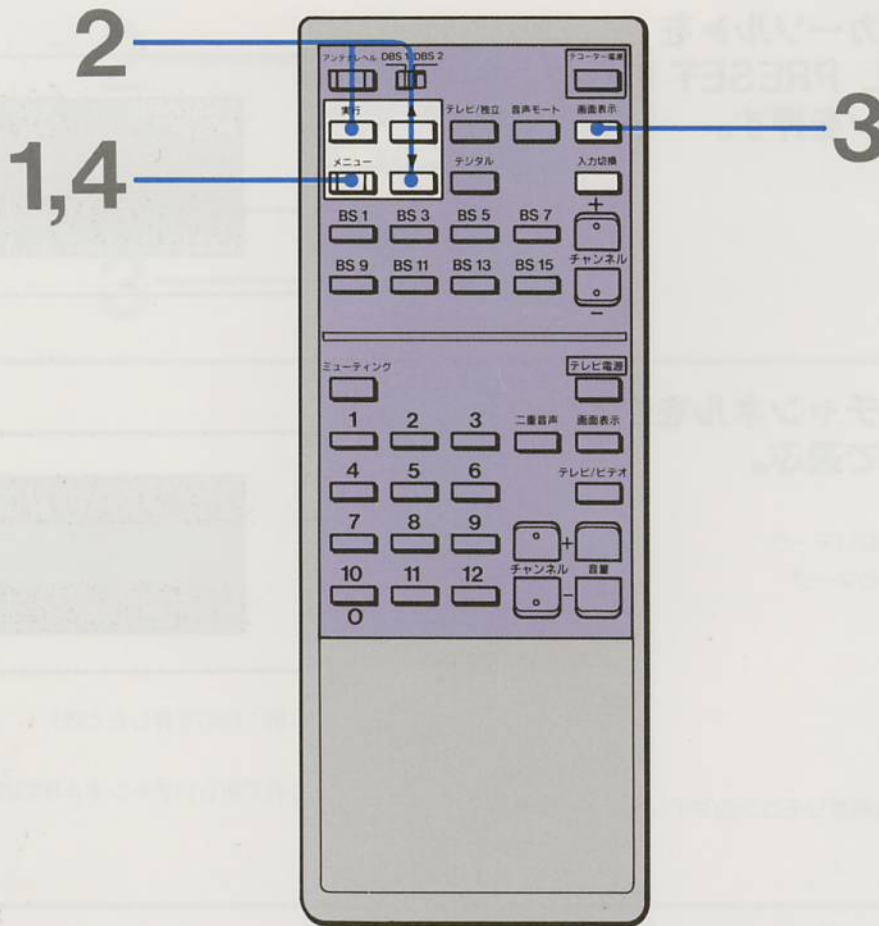
知っていると便利

メニュー画面の使いかた

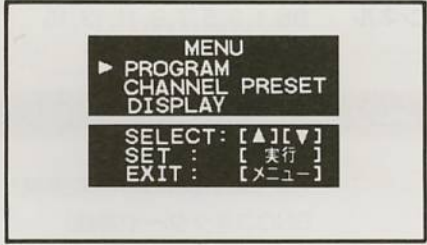
## 画面表示を出ないようにするには

画面表示は電源を入れたとき、チャンネルや音声モードを切り換えたとき自動的に表示されますが、表示を出したくないときまったく出ないようにすることができます。

リモコンで操作してください。



1 メニューボタンを押す。



2 ▼ボタンでカーソル▶をDISPLAYに合わせ実行ボタンを押す。



3 画面表示ボタンを押してOFF表示を出す。



4 設定が終わったらメニューボタンを押す。



もとの画面に戻ります。

知っている  
と便利

メニュー画面の使いかた

# 主な仕様

**受信方式** BS衛星放送方式、MUSE信号、NTSCカラー  
周波数シンセサイザー選局方式

**受信チャンネル** BS 1、3、5、7、9、11、13、15

**アンテナ入力** BS IF：75Ω F型コネクター  
(BSコンバーター用電源出力DC15V、  
最大4W、心線側+、入/切スイッチ付き)

## ハイビジョン放送受信時、HDライン出力

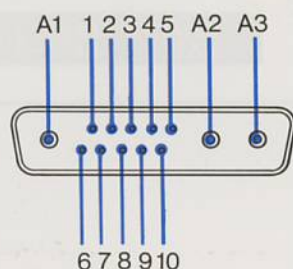
**映像出力** HDマルチコネクター(2系統)  
BNCコネクター(1系統)

YP<sub>B</sub>PR形式  
Y：三値同期付 1.0Vp-p 75Ω  
P<sub>B</sub>： } 三値同期付 ±0.30 Vp-p 75Ω  
P<sub>R</sub>： } 同期信号 ±0.35 Vp-p

GBR形式  
G： }  
B： } 0.7Vp-p 75Ω  
R： }  
H<sub>D</sub>： }  
V<sub>D</sub>： } 0.3Vp-p 75Ω

周波数特性：60Hz～16MHz±2dB以上  
S/N：35dB以上(Yにて、C/N15時)  
直線性：3%  
エネルギー拡散信号の残留レベル：-40dB以下

HDマルチコネクター



ピン番号	信号
A1	映像75Ω, Y(三値同期付) 1Vp-p/G 0.7Vp-p
A2	映像75Ω, P <sub>B</sub> (三値同期付) ±0.35Vp-p/B 0.7Vp-p
A3	映像75Ω, P <sub>R</sub> (三値同期付) ±0.35Vp-p/R 0.7Vp-p
1	垂直同期75Ω, V <sub>D</sub> 1.0Vp-p
2	水平同期75Ω, H <sub>D</sub> 1.0Vp-p
3	Y, P <sub>B</sub> , P <sub>R</sub> /G, B, R 識別 TTLレベル L: Y, P <sub>B</sub> , P <sub>R</sub> H: G, B, R
4	標準/非標準 識別、TTLレベル L: 標準 H: 非標準
6, 7, 8, 9	アース
5, 10	あき

**音声出力** 選択前 4CH(ピンジャック)  
選択後 5CH(ピンジャック)  
平均出力レベル 250mVrms  
(Fs-18dB 1kHz時)  
最大出力レベル 2.0Vrms  
出力インピーダンス 1kΩ以下

	Aモード	Bモード
周波数特性 +1 -3 dB以内	50Hz～15,000Hz	50Hz～20,000Hz
S/N比 (Fs-18dB時)	60dB以上	60dB以上
チャンネルクロストーク (Fs入力時)	-60dB以下 (125Hz～10,000Hz)	-60dB以下 (125Hz～10,000Hz)

**デジタル音声出力** 同軸：ピンジャック(EIAJ)\*  
光：角形コネクター

**MUSE入力** ピンジャック 75Ω 0.4Vp-p(FM)  
0.8Vp-p(AM)

**MUSE出力(検波出力)**  
ピンジャック 75Ω 0.4Vp-p

**ビットストリーム出力**  
ピンジャック 75Ω 0.5Vp-p

**DOS入力** ピンジャック 75Ω TTLレベル

**AFC入力** ピンジャック 75Ω 0.5Vp-p

\* EIAJ(日本電子機械工業会)規格による測定値です。

## BS放送(NTSC)受信時 BS(NTSC)出力

- 映像出力** ピンジャック(2系統)、1Vp-p、75Ω  
不平衡、同期負
- 周波数特性 50Hz~4.5MHz  
微分利得/位相 3%/3°
- 音声出力** ステレオ：ピンジャック(2系統)  
平均出力レベル 250mVrms  
最大出力レベル 2.0Vrms  
出力インピーダンス 1kΩ以下

	Aモード	Bモード
周波数特性 ±0.5dB	2Hz~15kHz	2Hz~22kHz
ダイナミック レンジ	80dB以上	90dB以上
高調波 ひずみ率 (1kHz)	0.07%以下 (1kHz)	0.007%以下 (1kHz)
SN比	90dB以上	90dB以上

- デジタル音声出力** 同軸：ピンジャック(EIAJ)  
光：角形コネクタ
- 検波出力** ピンジャック、75Ω、0.67Vp-p
- ビットストリーム出力**  
ピンジャック、75Ω、0.5Vp-p
- コントロールS入力** ミニジャック
- コントロールS出力** ミニジャック
- 電源** AC100V、50/60Hz
- 消費電力** 110W(スタンバイ時8W)
- 電源コンセント** VTR専用ACアウトレット：電源スイッチと  
非連動、最大100W
- 最大外形寸法** 470×125×520mm(サイドウッド付き)  
(幅/高さ/奥行き)
- 重量** 13kg
- 付属品** リモートコマンダーRM-J101 (1)  
乾電池(SUM-3 単3) (2)  
HDマルチケーブル (1)  
HD音声ケーブル (1)  
映像・音声ケーブル (1)  
取扱説明書 (1)  
保証書 (1)

## リモートコマンダーRM-J101

- リモコン式** 赤外線パルス方式
- 電源** DC3V  
乾電池(SUM-3 単3) 2個
- 最大外形寸法** 67×19×175mm  
(幅/高さ/奥行き)
- 重量** 140g(乾電池含む)

## 付属のケーブル

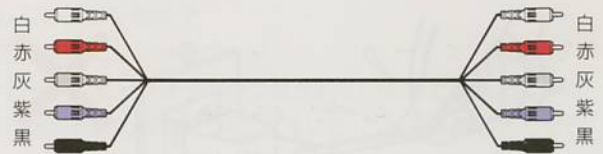
### HDマルチケーブル

(マルチコネクタ1個×2)



### HD音声ケーブル

(ピンプラグ5個×2)



### 映像・音声(NTSC)ケーブル

(ピンプラグ3個×2)



本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。

その他

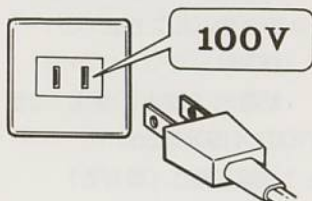
主な仕様

# 使用上のご注意

## 安全上のご注意

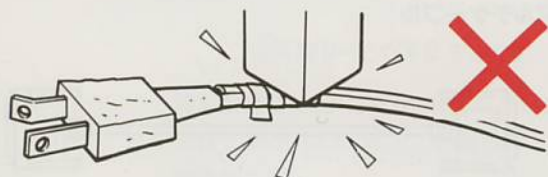
### 電源について

家庭用電源コンセント(AC100V)につないでご使用ください。  
国内用ですので海外ではご使用になれません。

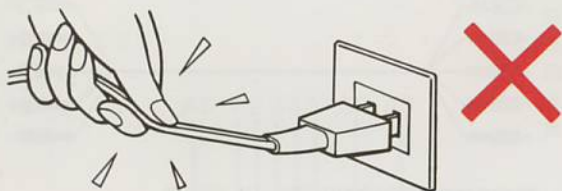


### 電源コードについて

電源コードを無理に曲げたり、上に重い物をのせたりしないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因になります。  
傷がついたコードは使わないでください。



電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。



### VTR専用ACアウトレットについて

消費電力が100W以下のビデオデッキの電源コンセントとしてお使いください。これ以外の電気製品(アイロン、炊飯器、電子レンジ、クーラーなど)は絶対に接続しないでください。  
またこのときビデオ側のACアウトレットには、何もつながないでください。

### 留守にするときは

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。



### 重いものはのせないでください

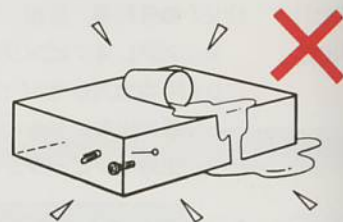
キャビネットを傷めたり、故障の原因になります。

### 感電を防ぐために

キャビネットは、絶対にはずさないでください。  
内部に手を触れると感電することがあり危険です。  
本体のお手入れのときは、万一の感電を防ぐため必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

### 異物について

内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや、金属類を落とさないでください。そのまま使用すると火災や感電、故障、事故の原因となります。



### 異常や不具合が起きたら

万一異常や不具合が起きたとき、異物が入ったときは、電源を切り、電源コードを必ずコンセントから抜いて、すぐにお買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

## 取り扱い上のご注意

### 避けてほしい場所

本機を長い間お使いいただくためにつぎのような場所での使用および保存は避けてください。

- ・極端に暑い所や寒い所
- ・湿気の多い所
- ・ほこりの多い所
- ・激しい振動のある所

### 放熱について

内部の温度上昇を防ぐため裏面にはファンが内蔵されています。  
上面および裏面に放熱孔がついています。ご使用中には次のことにご注意ください。

- ・放熱孔はふさがないようにください。
- ・ラックに収納する際は通気に十分お気をつけください。
- ・背面にはファンの吹き出し孔がありますので、ふさがないようにしてください。
- ・UHF/VHFのテレビチューナーやビデオなどと重ねると、妨害を与える可能性があります。できるだけ離して置いてください。

### お手入れ

キャビネットは、柔らかい布でおふきください。  
キャビネットの汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤液に柔らかい布をひたし、固くしぼってから汚れをふきとります。  
このあと乾いた布でカラぶきしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

# 故障とお考えになる前に

修理にお出しになる前にもう一度点検してみましょう。

症 状	原因／処置
衛星放送が映らない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●BSアンテナと直接つないでいる場合（マンションなどの共聴システムではない場合）コンバーター用電源が「入」になっていますか。</li> <li>●衛星の方向に障害物がありませんか。障害のない所に設置してください。</li> </ul>
衛星放送の映りが悪い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●接続を確認してください。</li> <li>●BSアンテナの方向および、障害物がないかをチェックしてください。</li> <li>●BSアンテナ／BSコンバーターとBSチューナーの接続にBS専用同軸ケーブル、BS専用コネクタを使用していますか。</li> <li>●マンションなどの共聴システムでコンバーター用電源が「入」になっていませんか。</li> </ul>
テレビ／独立音声切り換えボタンを押しても独立音声にならない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレビ音声の放送しかないときは独立音声は選べません。</li> </ul>
二重音声ボタンを押しても、主あるいは副を選べない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●二重音声がないときは、主／副音声を選べません。</li> </ul>
画面表示が画面から消えない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リモコンの画面表示ボタンをもう一度押してください。</li> </ul>
画面表示が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●メニュー画面でチャンネル表示を「OFF」にしていますか。→60ページ</li> <li>●ライン出力2(画面表示はありません)から映像出力をとっていませんか？</li> <li>●HDライン出力1のGBR/YPbPr切り換えスイッチがGBR側になっていませんか？</li> <li>●画面表示はBSライン出力とHDライン出力、両方同時に出ることはありません。</li> </ul>
タイマー録画(録音)で希望番組が録れなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プログラム予約は正しくしてありましたか？</li> <li>●プログラム表示は点灯していましたか？→46ページ</li> <li>●本機のVTR専用ACアウトレットにビデオデッキが繋がれていること、またビデオデッキのACアウトレットには何も他の機器をつないでいないことを確認してください。→48ページ</li> <li>●設定ボタンはビデオデッキの電源を切ってから押しましたか。→49ページ</li> </ul>
電源が自動的に切れてしまい、STANDBYランプが点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●裏面のファンの具合が悪くて止まってしまうと自動的に本体電源が切れるようになっています。お買い上げいただいた販売店、もしくはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。</li> <li>●本体とコンバーターとの間のケーブルが途中でショートしていませんか？ 原因を取り除いた後、再び本体の電源スイッチで電源を入れ直してみてください。</li> </ul>
BS放送を見ているとき画面に画面表示が出なかったり、本体前面の表示窓に音声の表示をしないことがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●INPUT SELECTボタンでEXT MUSEを消し、チューナー入力側にしてください。画面表示と音声表示が出ます。このときハイビジョンの画像は出てきません。</li> </ul>

その他

使用上のご注意／故障とお考えになる前に

# 保証書とアフターサービス

## 保証について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

## アフターサービスについて

調子が悪いときは まずチェックを	「故障かな?と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかお調べください。
それでも具合の悪い ときはサービスへ	お買い上げ店、またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
保証期間中の修理は	保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。 詳しくは保証書をご覧ください。
保証期間経過後の 修理は	修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

### 部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

**型名：MST-1000**

**故障の状態：できるだけくわしく**

**購入年月日**

お買い上げ店

TEL.

お近くのサービスステーション

TEL.

お問い合わせ

ソニー株式会社 情報システム国内営業本部 特機営業部門  
北海道 営業所 (011)231-8121 東 海 営業部 (052)201-6871  
東 北 営業所 (022)257-7830 近 畿 営業部 (06)531-4111  
首都圏 営業部 (03)458-7062 四 国 営業所 (0878)51-3942  
関 東 営業所 (048)645-6880 西 日 本 営業部 (082)241-9211  
横 浜 営業所 (045)243-6711 九 州 営業所 (092)741-2761



最  
が  
窓

その他

保証書とアフターサービス

# 保証書とアフターサービス

## 保証書の取扱い

保証書は、ご購入の際に必ずお渡ししております。保証書の取扱いについては、保証書裏面に記載しております。必ず保証書をお読みください。

## 保証期間

本体	1年
電源ケーブル	2年
リモコン	1年
その他	1年

保証期間中に故障が発生した場合は、弊社までご連絡ください。修理費用は無料です。ただし、保証書に記載の条件を満たしている必要があります。

お問い合わせ先

TEL: 03-1234-5678  
 FAX: 03-1234-5679  
 E-MAIL: support@company.com

お問い合わせ先

TEL: 03-1234-5678  
 FAX: 03-1234-5679  
 E-MAIL: support@company.com

保証書の取扱いについては、保証書裏面に記載しております。必ず保証書をお読みください。



